

東北学院大学教育総合研究所 2024年度講演会

採用が多様化する社会教育職員におけるキャリア形成を考える —図書館員の事例から—

[企画趣旨]

指定管理者制度の導入や業務委託導入施設の拡大などにより、公立図書館や大学図書館においても公務員・法人職員や非正規雇用公務員としての働き方とは異なるキャリア形成がみられるようになっていきます。

本講演会では、それぞれ異なるキャリアを歩んできた3名の図書館職員を講師に迎え、それぞれの来し方について話してもらいます。これらを通して、現在の図書館職員のなり方の多様性を知るとともに、今後専門職として就職することを希望する学生が自らの進路やキャリア形成に向けて取り組むべき課題を考える機会としたいと思います。

あわせて、指定管理者制度などが導入されている中での資格課程履修者のキャリア形成について、他の資格課程も含めた教員の理解を深める機会としたいと思います。

[開催概要]

2025年1月23日（木）15：00より、東北学院大学五橋キャンパス（講義棟L307教室）にて開催

泉山 それでは、最初にご登壇いただきますのは、TRCエリアマネージャーの菊池さんになります。「NPO・企業が運営する公立図書館で働いた10年 10年に5館勤務し、責任者になるまで」というタイトルをいただきました。私が以前に調査に伺った図書館にもお勤めだったということで、事前打ち合わせのときにその図書館の話題で盛り上がりもしましたが、さまざまな経験されているということで、いろいろとお伺いできたらと思います。それでは、よろしく申し上げます。

講演 1

NPO・企業が運営する公立図書館で働いた10年

～10年で5館勤務し、責任者になるまで～

(株) 図書館流通センター エリアマネージャー 菊池 晃成 氏

菊池 あらためまして、皆さまこんにちは。

私は、菊池晃成と申します。どうぞよろしく願いいたします。

先ほどご紹介いただきましたとおり、私は現在、株式会社図書館流通センターに勤めております。そして今は、北東北エリアのエリアマネージャーとして業務を担当しております。

出身は岩手県で盛岡の高校を卒業したあと、山梨県にある都留文科大学に進み、卒業してから10年間で五つの図書館に勤務をして、現在はエリアマネージャーの仕事に就いています。そして昨年4月に認定司書に認定されたので、認定司書としても活動しております。

今日のお話ですが、パワーポイントでお示ししている次第で進めたいと思っております。今は特定の図書館に所属しているわけではありませんが、皆さんの中には、司書になりたい、とか、図書館で働きたい、ということを考えている方もいらっしゃると思いますので、私の歩んだキャリアを参考にさせていただければと思います。

そこで、勝手ながら、今日のテーマを考えてきました。繰り返しもなるのですけれども、図書館司書を志す方に今後のキャリアの参考にさせていただきたいということで、図書館の専門的な話よりは、私自身の経験を中心にお話するつもりです。図書館で働くといっても、雇用形態も就業場所もすごくバラバラだと思いますので、一概にこうですと言えないのが図書館の状況だと思います。そのような中、私は大学を卒業して10年、指定管理者の職員として村立図書館から県立図書館まで働きましたので、身近なキャリアの一つとして参考にさせていただけるのではないかと思います。参考にしてほしい一心からなるべく包み隠さず話していきたいと思っておりますが、あくまでも、私個人のお話しとして聞いて下さい。

それでは、指定管理者制度って知っていますか、ということから始めます。司書課程の授業ではもちろん扱われていると思うのですが、ここだけはどうしても、お話しする上で避けて通れない話題だと思うので、すごくざっくりとですがご紹介します。

指定管理者制度とは、地方公共団体が公の施設の管理を行う際に、民間企業やNPO、市民団体などの法人その他の団体に、その管理を委ねることができる制度です。この制度の目的は、民間のノウハウや創意工夫を活かして、住民サービスの向上や行政コストの削減を図ることにあります。

一言で言えば、「公共施設に民間の力を取り入れて、サービスの質を高めていこう」という

制度だと捉えていただければと思います。最近ではあまり行われていないと思うのですが、図書館にこの制度を入れるときには、開館時間を拡大するとか、休館日を減らすとか、そういったことがトレンドとして取り入れられていたのかなと捉えております。

ここからは私のキャリアのお話です。最初は、山梨県の山中湖村にある、山中湖情報創造館から始まります。

そもそも、私が図書館の仕事に就きたいと思ったのは、小学生の頃に所属していた図書委員会の活動がすごく面白くて、中学生のときの職業研究の取り組みの中で、社会人になっても図書委員会の取り組みを続けられないのか、と考えたことが始まりです。そこで初めて「図書館司書」という言葉も知りました。そして、高校に入ると生徒会執行部に入りました。生徒会は活動するための部屋が割り当てられていなかったのですが、たまたま高校の学校司書の先生が休職中だったので、図書室を生徒会室として使うために許可をとり、役員みんなで図書室の本を独り占めした、という思い出もあります。このように、学校生活の要所で私は図書館にお世話になってきたので、進路選択でも司書になる道は残したかったのです。それで、司書課程のある大学を選びました。

都留文科大学では、大学の3年生から司書課程もしくは博物館学芸員課程のどちらかを履修することができたので、私は司書課程を履修しました。そこで恩師の小林是綱先生と出会いました。21歳の頃です。司書課程を履修していたとき、月曜5限が「図書館特論」という授業で、その初回の授業で先生に「現在の図書館司書は、社会的地位は高く見られがちだが、待遇はその地位に見合わない。それでも司書として働きたい人は、就活を支援します。」とはっきりと言われたことを覚えています。

確かに、私の大学でも司書はすごく人気で、司書課程は他の授業の成績上位者から順番に履修する権利が得られる、という方式でした。それだけ、司書という職業に対する憧れや関心が高かったのだと思います。外から見た司書の雰囲気も良くて、私たち学生の間でも「なりたい職業」としての魅力がありました。先生はそんな私たちの気持ちも見抜いて、本気で働きたいスタッフに指導をしないと、ふるいにかけていたのかもしれないと思っています。

これが最初の人生の分岐でした。私は教職課程も取っていましたので、教員の道に進むのか、司書になるのか、悩みます。悩んだ結果、やっぱり司書になりたい気持ちが強くて、小林是綱先生に「司書になりたいです。」という話をしたところ、山中湖情報創造館での勤務がスタートすることになりました。この頃は先生の言っていた「見合った待遇」に関する具体的な数字は聞いておらず、何とかなるだろうと楽観的に考えていました。

そして、最初に勤務した図書館が山中湖情報創造館です。山梨県の山中湖村は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、富士山の山麓に位置していて、標高が大体1000メートルぐらい

の所にあります。夏の平均気温が約20度で、雪がないだけで北海道と同じような気候特性を持っています。貸別荘も豊富にあって、夏になると全国各地から利用客や観光客が来ます。

ここの図書館は公共図書館なので、通常は山中湖村立図書館みたいな名前が付くと思うんですけど、あえて図書館の名前は外してあります。情報創造館の仕事の中に図書館機能が含まれるという考えで、あくまでもその本質は情報活動の支援と、情報の拠点であるというのがメインで、そのニュアンスにこだわって名前が付けられたということです。山中湖村に2004年に開館して、国内で初めて民間組織が運営する公立図書館だということで話題になっていました。私も図書館業界の関係者に山中湖情報創造館出身ですと伝えると、結構、驚かれます。それぐらい有名な図書館だったと実感するのは、実はここを出てからの話なんですけれども、すごくいい所からキャリアを始められたなって思っています。

サービスの特色としては、利用者カードを作れる方の制限がなくて、全国どなたでもカードが作れることと、貸出冊数の制限もないことで、3週間で何冊でも借りられるところが一つの特色だと思っています。

当時の私の所属は、NPO法人の職員です。NPO法人地域資料デジタル化研究会の職員として、山中湖情報創造館で勤務するところから始まっています。ここでの仕事は、人数も10人いないような小さな図書館だったので、分業せずに、その日に出勤したスタッフが仕事を全部こなしていくイメージの図書館でした。ひとりで幅広い仕事をこなしていくので、実務の基礎は全部この図書館で入ったと言っても過言ではないかと思います。一般的なカウンター業務に始めて、動画制作などもやるようになっていきました。当時の写真がちょっとだけありました。自分が初めて担当した企画展示の写真です。レシートロール芯やフィルムコートの芯を再利用してブックスタンドを作っており、工夫が見られます。

あとは、大学の後輩を呼んで影絵劇を上演したこともありました。それから近くに昔の農具の展示などを行っている古民家がありまして、そこの管理や掃除も、指定管理者職員の仕事となっておりました。この他にも、レゴブロックを使ったプログラミング教室や、もう10年前ですけれども、ボードゲームをいち早くイベントに取り入れておりました。海外の事例に学び、常に新しいことを取り込み続ける図書館ということで、司書課程で習ったような図書館のイメージとはちょっと違う、私の中のイメージを大きく変えてくれた図書館だと思っています。ここでの経験は、後に責任者として勤務することになる弘前市立図書館以降、本格的に活かされていくこととなります。

初めての図書館で、当時館長だった丸山高弘さんに言われたことが三つありました。一つ目は、図書館をテーマにした論文をとにかく書けという指導です。働きながら書きなさいと言われてきました。論文を書くことを通して、自分の考え方を研究し、整理するだけでなく、先行研究

を調査することが、司書のスキルの錬成にもなるということで、とにかく論文を書くように言われました。この論文を書く行為は、山中湖情報創造館を出た先の私のキャリアを作るためのつながりづくりという側面もあったと思います。二つ目は、海外の図書館を勉強するように言われました。それも、有名な図書館ばかりではなく、どこかの州立図書館みたいな所を調べて、日本の一般的な図書館との違いを、どんどん知りなさいと言われました。たまたま館長が、海外の図書館のホームページを印刷して渡ってきて、「何が書いているのか感想と合わせて私に説明しなさい」という宿題を渡されたことも、今となれば思い出です。私は英語がすごく苦手なのですが、「大学を卒業しているのだから英語ぐらいできるでしょ」と、そんなことを言われたのを覚えています。

そして三つ目は、仕事のスタンスとして、楽をするための努力を惜しむなということでした。これは、さぼれと言っているわけではなくて、機械に任せられることと、人がやるべきことをしっかり分けて、無駄な仕事に時間を費やさない、という意味です。10年経ってもこの言葉をすごく大切にしています。図書館員だからといって、本や情報だけを扱っているわけではないのです。パソコンも触りますし、システムエンジニアと図書館システムについて意見交換が必要な場面も多々あります。仕事の中で、幅広いスキルを身につけて、自分が現場で困らないようにするための言葉だと思っています。

ここまでが私の駆け出し司書としての学びの話です。続いては、私の勤務条件に関する話です。なかなか真正面では聞きづらいいと思いますけども、みなさんが気になるテーマだと思います。

山中湖情報創造館の勤務時間は6時間で、この他に休憩が30分あります。全体は早番と遅番の2交代で、私は遅番のスタッフでした。14時45分に出勤して、21時15分に退勤をするという勤務シフトになっていました。この21時15分の退勤後が、館長から図書館についていろいろと教えてもらう時間で、ここでの貯金は、今でも本当に役に立っています。

しかし、普通の仕事は大体8時間だと思います。山中湖情報創造館の勤務時間が8時間未満であるという点は、重要なポイントなので解説します。間違えるといけないので、文部科学省のホームページに寄稿された当時の実践事例から紹介します。気になる方は調べていただきたいのですが、私の所属していた組織は地域資料デジタル化研究会というNPO法人です。この組織の考え方が、1日24時間を6時間×4セットと考えていることに由来していました。①睡眠時間、②生活必要時間、③山中湖情報創造館での勤務時間。これら3つが合計で18時間だとすると、残りの6時間が自由な時間になる。この自由な時間を副業に充ててもいいし、自己の研さんに充ててもいい。自分の人生を豊かにしていくための時間として使ってほしい、ということでした。給料が高いとは言えないので、他の職業に就職するための機会、他の仕事との

出合いを与えていく時間と考慮されていました。

さて、それではこの6時間4セットを上手に使えたかという点、スライドのように、とてもじゃないですが、私はこのライフスタイルを実践出来ませんでした。当たり前ですけども、6時間を4セットでまとめるってすごく難しいんです。ご飯でも、朝食・昼食・夕食は一度に全部食べないですし、通勤時間も片道で45分ありましたので、提案された時間どおりの働き方は、結構、難しかったと思っています。ただ一方で、退勤後に館長から図書館のことを教えてもらった時間は、社会参加時間と言えるかもしれません。

そして、最初にお話した小林是綱先生の言った覚悟の部分。待遇についてです。公務員とか一般企業並ではなかったです。これは私を雇ったNPOのほうもよく知っていたので、長く在籍することは最初から想定しておらず、勤務期間は1年ということと言われて働きはじめています。給与も、山中湖情報創造館が載っている本を調べると出てきますが、大卒の平均初任給に比べると、大幅に下回っておりました。あと、ここからはそれぞれですけども、卒業後、半年経つと奨学金の返還が始まるんですよ。

私の場合、給与の半分近くが固定費で消える現実を前に、この業界を続けていくのか本気で考えました。皆さんがどの業界に進むにしても、やりたいことと、収入と、プライベートのバランスは、すごく考えていただきたいポイントです。いけると思ってやってみたけど、意外と辛かったっていうのは、どうしてもこの1年目の話として付いてきます。よく考えてみてください。

それでは、山中湖情報創造館のまとめですけども、仕事面では、図書館司書のスキルをすごく大きく伸ばしてくれました。これは実務的な技術以上に、知識の方です。この経験が、この後の全ての図書館員業務の役に立っているのも、本当にここは感謝しています。また、山中湖村は、私の住んでいた都留市から車だと45分程度で通えましたので、大学を卒業した後も1年長く都留市に残ることが出来ました。苦楽を共にした部活仲間とか、そこでつながった市民の皆さんとか、そういった方と1年長く一緒に過ごせたことは、とても嬉しかったことを覚えています。以上から、大学の5年目みたいな感じもあり、生活は結構楽しかったです。

ただ、その全てにおいて、お金は付いてこなかったです。分かっていたけど予想以上で、お金には苦労しました。ただ、今のキャリアを振り返ると、本当に必要な1年だったことは間違いないので誰が何と言おうと、働いてよかったなって思っています。

山中湖情報創造館で働きはじめて1年後に期間満了となり、かねてから決まっていた、岩手県立図書館で仕事を始めます。ここから、私は株式会社図書館流通センターの有期雇用の職員になります。略してTRCって言いますが、聞いたことがある人は結構多いのではないのでしょうか。1979年に創業した、図書館の総合支援企業で、装備付きの図書の納入や、書誌データの

販売、指定管理等の図書館運営などを主な柱としています。これも調べればいろんな情報が出てくると思いますので、ぜひ、調べてみてください。以降はこの会社の社員として、今日まで働いています。

そんな岩手県立図書館の概要です。私はここでサービス1課という組織に配属されます。この県立図書館で働くことになって、それまでとの違いに驚きました。まず、スタッフが50人くらい在籍しています。開館時間は山中湖より短いのに、シフトは3交代です。山中湖は2交代だったので、勤務体制が盤石だと、そういうところからカルチャーショックを受けました。

一方で、組織が大きいので業務は基本、分業です。以前は、資料を受け入れる、おはなし会をやる、そんなことはみんなでやったんですが、県立図書館に入ると全部の担当が分かれています。さらに、個人としても業務分掌によって仕事の範囲が定められていました。カウンターに立つ時間まで細かく決められていたことも、カウンターにずっと出ずっぱりだった山中湖との大きな違いだと思います。また、岩手県立図書館は全体的に規律重視で、目新しさとかチャレンジングなイベントには、慎重な姿勢だったと記憶しており、そこも山中湖とは対極でした。山中湖時代に行っていた工夫を岩手県立で実践しようとする、県立では「組織として検討して、周知してからやりましょう。」といった感じになり、どこか腰の重いところもあって、息苦しさを覚えたこともありました。ただ、県立図書館の管理運営を任されている、というところを考えると、理解できる部分ではありますね。

県立図書館で任された最初の仕事は、督促業務でした。小学校の図書委員会でも、最初は督促業務を担当したので、今度は仕事として督促に携われたことは嬉しかったです。

その他に、レファレンスも対応しました。山中湖にいた頃はお客さんも少なかったのですが、レファレンスらしいレファレンスはあまり受けたことがなくて、館長からの演習問題を解くような経験しかなかったのですが、入社時に、「ここにはガチのレファレンスが来るよ」と言われて、とても緊張したことを覚えています。お客さんからのレファレンスに対応する中で、自身のレファレンスをレファレンス協同データベースに載せてもらったときには、仕事が評価されたのが、すごくうれしかったことを覚えています。

企画についても徐々に自分の意見が言えるようになってきて、盲導犬のワークショップとか、ろ過装置の工作教室とか、大学時代の経験を活かした影絵劇とか、たくさんの企画を立案しました。2年目以降は児童サービス、県立図書館のホームページの管理なども行いました。

山中湖情報創造館では図書館の概念を広げてもらったのですが、岩手県立図書館では司書らしい、図書館員らしいスキルや知識を伸ばすことができたと感じています。お客さん対応でもクレーム対応っていうのがありまして、必ずしも前向きとは言えないような場面とか、気持ちに対する状況を整理する力も付いたと思っています。

株式会社図書館流通センターに就職して、県立図書館に配属されたとき、最初に感じたのが、変な話なんですけど、社会人になったという実感です。入社時研修で、就業規則の確認とか各種研修制度を通してキャリアを積めるという話をされたときは、国内最大手の図書館企業に入ったという実感が湧いてきました。社会人としての自分が、いよいよスタートしたということを実感したのです。

それでは、キャリアに関する悩みはなくなったのかと言うと、なくなりませんでした。自分の中で給与は充分とは言い難く、賞与と退職金も含めて将来を考えていくと、お金が全てではないですけども、生涯年収は寂しくなるのかなってということにも悩みました。雇用も年度更新なので、毎年1年単位で雇用契約を結び直します。個人的に、この時期はとにかく雇用が安定しないことを悩んでいて、自分はこのために奨学金まで取って大学を出たのかっていう葛藤もありました。でも、やりがいはずごくあります。自分がやりたいことができている点で夢はかなえています。ただ、思い描いた夢と現実は違っていて、将来を考えるよりも、夢を捨てれば状況が全部解決されるのかと、考えるようになっていました。

そんな悩みも抱えながらも、やりたい仕事に就けた喜びは大きく、毎日楽しく充実した日々を送っていました。そんな県立図書館の3年目、転機が訪れます。この頃の私は仕事にも慣れてきて、他の指定管理受託館に応援に行くことも増えていました。そのような中、2016年の夏に、青森県つがる市立図書館が新しくオープンするので応援のために派遣されることとなります。イオンの中に入っている図書館ということ、つがる市が初めて設置する図書館ということで、利用者がたくさん来ることは容易に想像できました。そんな中で、自分がどのようにつがる市立図書館の役に立てばいいのかと、営業担当と話したときに返ってきた言葉が、「来年弘前市立図書館が始まるので、受託した場合は異動してほしい」という話でした。弘前市は自分の人生で一回も行ったことがない土地だったので、悩んだんですけども、断って今の生活を続けるのか、それとも受けて状況を変えるのかと悩んだときに、そもそもキャリアについて悩んでいた私にとっては、これを断る選択肢はないだろうと思って、思い切って挑戦することにして、異動を承諾しました。

ここから、責任者という働き方が始まりました。弘前図書館への異動は、図書館流通センターという会社ではチーフと呼ばれるポジションです。また、自治体の仕様書では業務主任者という役職があり、図書館の中での私はこの業務主任者として働くこととなります。弘前市立図書館の中での序列は、館長のひとつ下のポジションです。2017年2月、私が26歳の頃でしたが、弘前市に引っ越して、4月から指定管理の運営を行うための業務の引き継ぎを目的とした指定管理準備室のメンバーとして働くこととなります。この時期、私の給与が月給制に代わり、有期雇用から無期雇用のスタッフとなりました。以後、生活は安定したものとなっていきます。

最初、弘前市立図書館のサービス向上に関する打ち合わせをしたときに、私は青森県に住んでいれば誰でも利用者カードを作れるようにした上で、貸出上限冊数を無制限にしたいと提案しました。山中湖の考え方をそのまま持ち込んだのです。結果として、これは好意的に受け入れられて、今も続いています。山中湖情報創造館のノウハウが活きた瞬間で、お客さんからも大好評で、自分の成功体験として思い出に残っています。

一方で、初めての責任者なので、右も左も分からない中での采配を求められるという大変さも付いてきました。当時の新聞報道を追い掛けてもらえれば分かるのですが、弘前市立図書館には、市民の有志が集まった図書館の後援会がありました。この後援会は、運営のお手伝いをいろいろしてくれていたようなのですが、指定管理移行を巡る自治体とのすれ違いから、指定管理者制度導入時点で解散しています。私たちは図書館のサービス向上を通して、弘前の生涯学習を盛り上げていきかけたのですが、直営と指定管理の違いは、自分の思った以上に外部からの印象を変えてしまうのだと、実感した瞬間でした。そういった経験を経て、指定管理移行には一定の反対感情が発生する可能性があることを理解しました。その後、指定管理導入への理解を求めることを目的として、「進（シン）・図書館」というイベントが行われます。駅前のビルの中の大ホールを貸し切って、指定管理導入後に図書館がどのように生まれ変わるのか実演も兼ねて説明するためのイベントでした。このイベントでは、ビブリオバトルを実演したり、演奏会を行ったり、図書館として今後想定しているサービスを先に見せるということを行いました。

アクシデントもありながら、弘前市立図書館の指定管理がスタートしました。初日は開館セレモニーと称してテープカットが行われた他、ボードゲームのイベントをやったり、地元作家のワークショップを開催したり、弘前市立図書館が生まれ変わることを好意的に受け取ってもらえるように、とにかく大々的にイベントを行いました。

このようなイベントを経て、責任者としての仕事が始まるのですが、業務主任者になって始めた仕事はいくつかあります。まずは、1年間の事業計画書を作って自治体に提出した上で、それが不足なく行われているのか進捗を確認すること。次に、勤務シフトを作った上で、スタッフの勤怠状況を取りまとめることです。そして、資料費の管理も担当しました。大規模な予算を扱った図書館なので、計画的に消化しているかを確認します。これは苦い経験なんですけれど、1年目は見事に失敗して、初めてだとうまくいかないことも沢山経験しました。

あとは、責任者ではあるのですが、働いているスタッフの年齢はほぼ全員が私よりも年上だったので、そういった中でのマネジメントには結構悩んだり、工夫したりしました。指定管理に移行する前、引き継ぎを行って、スタッフのマニュアルなどを整備したんですけども、初めて行うイベントに関しては一から準備することになりました。そうすると、マニュアル作

りを中心とする残業時間が増えて、帰りが遅くなる日も続きました。仕事が落ち着くにつれて残業の解消に努めていくことになるのですが、その中において過労になったのかとか、メンタルを病んだのかというと、そこは全然、病まなくて、日々、楽しく生活していました。

初めて責任者として働いた図書館では、本当にたくさんのことを学びました。最も印象的なのは、予算管理です。図書館は、当たり前ですけど人件費、光熱費、資料費など、あらかじめ決められた予算があって、その範囲の中でサービスを進めていきます。それは、ある意味では一国一城の主のように捉えられるかもしれないし、小さい会社を経営しているようにも捉えられるということで、残業が増えれば人件費を圧迫しますし、本を買い過ぎれば資料費がなくなり、年度末の本が買えなくなるとか、企業ですので支出が増えて業務自体が赤字になると良くないとか、図書館の仕事に運営という視点が追加されたのが、この弘前市立図書館以降の私になります。あとは、現場のマニュアルは作りましたが、責任者のマニュアルはないので、自分で考えて、自分で行動することを学びました。また、パソコンのスキルを身に付けていきました。そう、楽をするための努力は惜しむなということですね。

あと、もう一つ思ったのは、責任者になると図書館のカウンターからは遠ざかります。徐々に図書館の仕事から、書類中心の事務仕事にシフトしていくんですよ。図書館司書を志した者として、この事務仕事がやりたくないかと言うと、そうでもなかったのは自分の中でもかなり意外な発見で、やってみないと気が付かない得手・不得手ってあるのだなと思いました。図書館に携わりながら、事務室で繰り返し広げられる図書館のマネジメントはすごく楽しくて、カウンターになかなか立たなくなりましたけれども、それでもすごく充実した日々だったって思えるのは、そういった自分の知らない自分の好みに気が付けたと思っています。

それから、ちょっと脇道にそれるんですが、大学時代の私に関してちょっとだけ紹介しますね。私、都留文科大学では児童文化研究部に入っていたんですよ。ここは「子どものより良い成長・発達を願い、子どもにとってより良い文化とは何かを考え、普及する」という理念がありまして、これをしゃべれないと先輩に超怒られるんです。さらにこの部活は、歴史が長いんですよ。私が入った時点でもう50年を超えていて、その歴史は伊達じゃなくて、入部前はみんなにこにこ楽しいよって言うてくれるんですけど、入るとスパルタでした。「大学って、もう義務教育は終わっているから、教育を受けるのは権利でしょ？でも、部活は自分の意思で入ったから義務だからね」ということを平気で話してくるんです。つまり、大学の授業を休んでも部活に出るよ、という感じの、相当に厳しく激しい部活だったんです。

活動内容としては、影絵劇を行う影絵班、絵本の読み聞かせやぶんこ活動を行う児童文学班、子ども会の運営を行う地域子ども会班、人形劇を上演する人形劇班。この四つのグループに分かれて活動をしていました。涙なくして語れない、拘束時間が長い部活でしたが、その血と汗

と涙が入り混じった活動の結果、「文部科学大臣表彰」というのを大学のサークルでありながら受賞するという、非常に珍しい功績を残すことができました。

私が入った班は、影絵班。「ほしのこ」と呼ばれる班だったんです。ケコミっていう黒い大きな舞台を作って、影絵劇をやります。実際に影絵劇団に入った先輩もいて、その方から発声練習とか、技術指導を受けたりしながら、切り絵の要領で背景を作って、30分程度のオリジナル影絵劇を上演していました。ちょうど写真の、この右上が影絵の背景ですね。これを10枚とか15枚とか作っていきます。あと右下側の、この黄色と青のフィルムを重ねると、何色になりますかっていうのを、子どもたちにクイズで出すっていうことをやってました。あとは手影絵です。ケコミの裏から撮っておりますが、これはキツネです。キツネを作ったり、うさぎを作ってみたり、それからお皿を使ってカタツムリを出してみたり、子どもを入れて、みんなでパンダを作ったりってような、こういった技術っていうのは、今でもストレートに生きておりまして、配属される図書館で私が中心となって影絵劇を上演したこともあります。

他のグループは、一坪図書館といって個人宅で図書室を持っている方がいて、その方と一緒に毎週、絵本の読み聞かせをやったり、午前中いっぱい遊んだりしました。さらに、子ども会を運営したり、出版社に許諾を取って、大きなサイズの絵本を自分たちで作るっていうこともやってました。また、毎年5月には、大学を全部貸し切って、地域住民や卒業生が力を合わせて行う50年以上の歴史を持つイベントがあって、各クラスに影絵とか工作とか、いろんな「くに」と呼ばれるブースを作って、300人近い子どもたちに遊んでもらうようなイベントもやっていました。

大学時代は、とっても充実していました。月曜日から日曜日まで、必ず何か部活が入っていて、バイトなんてやっている暇は有りませんでした。1年間通して公演のスケジュールがびっちり入っていて、夏休みとか春休みの比較的長い期間も、地元の幼稚園とか図書館から依頼公演を受けていましたので、そういった長期休暇中も出向いて公演を行っていました。依頼公演では自治体や学校との打ち合わせがありますし、読み聞かせは必ずと言っていいほどやることになるので、今の仕事の基礎として、この部活からも教わるが多かったように思います。拘束時間に関しては今の仕事よりもはるかに長かったので、公演前は結構、深夜まで作業したり、徹夜したりする日もありました。社会人になって、仕事は忙しいですけど、徹夜することまではなかったので、この部活よりは今の仕事のほうが時間に余裕があるぞ、なんて思いながら働けたっていう、メンタルを鍛えてもらいました。社会福祉協議会にボランティアに行ったときとか、地元の図書館での公演や、公民館の公演に行ったときの活動は、図書館の仕事に本当にストレートに活かすことができたと感じています。話をちょっと戻します。

弘前市には3年ほど在籍しました。徐々に弘前市立図書館の運営も軌道に乗ってきた頃、岩

手県久慈市に異動しませんか、という話が出てきます。久慈市は『あまちゃん』で有名だと思いますが、琥珀が採れることでも有名な場所です。

久慈市では、駅前に交流施設を建設し、ここに新しく図書館を作って移転する計画がありました。あわせて、指定管理者が運営することになりました。施設には、指定管理者制度が導入されるのですが、最終的に、ここの指定管理の形態としては、図書館部分は私たち図書館流通センターが、建物全体は久慈市の観光物産協会が運営をするということで、一つの建物に複数の指定管理者が入る形となりました。弘前市立図書館の館長からは、新館の指定管理館の立ち上げを行う経験は、なかなか積めるものではないから、ぜひ行って力を発揮してきてくださいと背中を押されて送り出されました。

弘前市立図書館はもともと建物があった図書館だったのが、久慈市では旧館から新館に移転して全く新しい状態から始まるので、その違いは、弘前市立図書館の館長が言う通りで、私も勉強になりました。館内マニュアルの整備から始まって、旧館から丸ごと引っ越してきた本たちが正しく移転できたか確認するための蔵書点検を実施し、蔵書点検後には排架図といって館内の地図も作り、それをシステムに入れて、OPACからどこにあるかというのを呼び出せるようにしました。久慈市立図書館がリニューアル開館した2020年は、ちょうど新型コロナウイルスが出てきた時期なので、イベント自体はあまり大きくやらなかったのですが、それでもたくさんの方が訪れるので、スムーズに案内できるように動線を考えていくといったことも行っていました。

開館後の仕事については、社内的なポジションはチーフと呼ばれるポジションのままなので、変わらないのですが、久慈市立図書館内での肩書は、副責任者という呼び方になりました。ここでも内部の序列としては、館長、次に副責任者ということになりますので、序列としては第2位ということになりますが、業務自体は大きく変わることはありませんでした。勤怠の管理や、資料費の管理などをやりながら仕事しています。大きく変わったのは、自分自身の中での経験値です。弘前市立図書館の時はまだ未熟だったため、時間ばかり取られていた仕事も、久慈市立図書館では初めてではないので、そこでの作業時間は、大幅に短縮できるようになっていました。それから、弘前市立図書館から必要なデータを取り寄せることもできたので、業務の効率を図ることが出来るようになっていました。

マネジメントも、弘前市立図書館の頃は3年間、手一杯でしたけれども、いろいろ業務の効率化ができましたので、楽をするための努力を惜しむなっていう言葉が、徐々に実ってくるんですね。そうすると、仕事についても忙しいなりに余裕が出てくるんですよ。こうなったら、やりたいことをやるしかないですよ。要領を得たっていうことで、自分の立ち位置を弘前市立図書館の頃からちょっと変えることができ、自分の色を出せるようになっていきまし

た。特に力を入れて取り組んだのは、電子図書館のサービスや、ボードゲームの貸し出しですね。今までも、ボードゲームのイベントをやってきましたんですけども、ボードゲームを図書館の資料と同じように貸し出しまでやりたいという思いもあって、その実現にも動いていきました。館長も、すごく理解のある方でしたので、相談しながら、やってみようという感じで進めていったことを覚えています。配属される図書館が変わるたびに、私の環境は大きく変わり続けるんですけども、こうやっているいろんなサービスに携わることができるのは、指定管理者の職員として働くメリットといえると思います。

私がこれまでに企画・実施してきたイベントについてご紹介します。

まず、子ども向けのプログラミングワークショップを開催しました。参加者には実際にプログラミングを体験してもらい、ロボットを動かすという内容で、楽しみながら学べる場を提供しました。

また、私自身が影絵を好きということもあり、影絵劇の上演も行いました。制作の時間が取れなかったため、市内の小学校から紙芝居形式の影絵をお借りし、それを活用して上演しました。地域の資源を活かした取り組みです。

さらに、サイエンスカフェの企画では、近隣の天文台の台長さんをお招きし、天体観測イベントを実施しました。専門家との連携により、参加者にとっても学びの深い時間となりました。

コーヒーワークショップも開催しました。私自身がコーヒーを淹れるのが好きで、施設内にあるカフェの方に講師をお願いし、参加者と一緒にコーヒーの淹れ方を学ぶ場を設けました。

そして、特に力を入れて取り組んだことが、貸出資料として「ボードゲーム」を導入したことです。図書館でボードゲームを扱うことに対しては、「なぜ図書館で？」という声もありましたが、図書館の資料提供にとどまらない、総合的なサービスの一環として位置づけました。現在では、ボードゲームは教育や地域交流のツールとしても注目されており、図書館にとっても新規利用者の獲得や居場所づくりに貢献できると考えています。定着を図るために、貸し出しだけでなく、さまざまなイベントを実施しました。そして、「ボードゲーム」と一言と言っても、その種類は多岐にわたります。言葉だけではイメージしづらい方も多いため、貸出サービスを行うにあたり、実際に体験してもらう機会を設けることで、理解と興味を深めてもらえるよう工夫しました。

ボードゲームのイベントは、貸出サービスの定着を目指して2022年などは2カ月に1回のペースで開催していました。貸し出すための手順などを工夫しながら、今では30点以上のボードゲームを所蔵し、利用も定着しています。岩手県内の導入事例としては1番を取りたかったんですけども、ちょっと足りなくて、おそらく2例目になっています。

導入に際して特に苦労したのは、貸出後の内容物の確認作業です。内部でも「ちゃんと戻っ

てくるのか」「確認作業が業務負担にならないか」といった議論が多くありました。例えば、コマが10個や20個程度であればまだ対応可能ですが、100枚のカードや100個以上のトークンが含まれるゲームでは、確認に非常に時間がかかります。

実際に紛失があるかどうか以前に、返却後のチェック作業そのものが大きな負担となり、他の業務に支障をきたす可能性もありました。そのため、貸出可能な状態に戻すまでのインターバルを短くする工夫が必要で、そこに大きな苦勞がありました。

内容物が紛失するのではという不安が有りながらのスタートでしたが、結局、私が在籍していた期間では、貸して戻ってきたボードゲームで、中のトークンが無くなったことは、なかったですね。きちんと利用者に確認していただけていたと思います。その他にも内容物の確認票とか、ルールとか、ボードゲームによって内容物の書き方がさまざまなので、統一したフォーマットで分かるように工夫したっていう要素も大きかったと思います。

それから、皆さん、ミニ四駆って知っていますか。ある企画を思い付いたんですね。久慈市には、タミヤの「ミニ四駆コース100選」に選ばれた、金属のコースがあったんです。なので、ミニ四駆を使ったイベントを企画しようと思いました。内容的に図書館単独ではできなかったんですけども、観光物産協会に企画を持ち込んだらいけるんじゃないかと思って、思い切って話してみたら、意外とやってみましょうということになりまして、共催事業として行いました。

当日までの間は、私が企画を提案したというところもあって、ミニ四駆の組み立て教室を私が仕切ったり、そういったものもやりながらこのイベントの運営方法とかもいろいろ考えながら進めて、図書館としてもこの企画が呼び水になって、新しいお客さんが来てくれれば、それでいいということで、一緒に企画をしました。

私自身もミニ四駆を作っていくんですけど、結構、難しかったです。電動のドリルを使いながら、競技シーンで用いられている技術を、なるべく再現して作ってみようと思って、夜遅くまで作っていました。大人の方が来ることは想像できたので、戦って歯応えのある経験をしてほしいと思って、頑張って作ったことを覚えています。こうして、ミニ四駆の大会を始めます。商工会議所の方が来てサーキットを作って、設営してくれました。

当日は、通常の大会のルールでは年齢で分かれるんですけども、ここは公共施設なので、老若男女、皆さんに楽しんでいただきたいので、あえて年齢を混ぜて、みんなでやるイベントにしました。そうすると、図書館って性別で見ると女性の利用者のほうが多いのですが、今回このイベントに参加したのは、圧倒的に男性が多かったです。特に、お母さんと子どもっていうペアじゃなくて、お父さんと子どもっていう組み合わせがすごく珍しくて、久慈市内にこんなに人がいたんだねと、商工会議所の方が笑っていました。図書館としても新規の利用者の

獲得にもつながって、意外と自分の特技とか、何が役に立つか分からないなと思いながら働いていました。これまでに合計2回実施して、3回目の実現に向けて私もひそかに期待しています。

そんなことをやっていたら、あっという間に指定管理の更新という時期がやってきました。久慈市立図書館は2020年から2023年の3月までの契約でした。2022年の夏に第2期の指定管理期間の公募が始まります。雇用を守るという意味でも、ここは決して落とすことができなくて、この指定管理者が業務を受託するに当たって、私たちを選んでくれるとこんなことをやります、というのをまとめた資料に、提案書と呼ばれる書類があるんですけども、その提案書を書くということを任されました。記載内容は、募集する自治体が求めた書式や、項目にのっとなって、次の指定管理期間の運営方針ですとか、新規事業はこんなことをしますとか、あとは危機管理の考え方、費用の削減の考え方、そういった項目立てがありまして、自分の持っている知識とか経験値というのを総動員して、この提案書の執筆に臨んでいます。これ以降、定期的にこの作業に携わっていくことになります。ここでは結果として、また第2期も引き続き図書館流通センターにお願いしますと言われまして、無事に更新もできて、この辺りで、自分のキャリアをまた考え始めます。

チーフとしての仕事も5年を超え、6年目に入りました。最初の頃と比べると、仕事にもだぶ慣れてきました。決して「飽きた」というわけではないのですが、そろそろ次のステージについて考えたいと思うようになりました。

チーフという社内ポジションはあっても、館によって業務内容は大きく異なります。そこで、私が退いた後に後任が困らないようにと、自分の時にはなかった業務マニュアルの整備に取り組みました。自分が経験した苦勞を、次の人が繰り返す必要はないだろうという思いからです。

生活面でも、この頃には安定していました。少し迷いましたが、ここでお伝えすると、奨学金もこの時期には完済できていました。責任ある立場に就くことで、生活も安定していたのだと思います。

そして、チーフの次に自分がこの会社で目指すとしたら何か——そんなことを考えるようになりました。実はその答えはすでに出しているのですが、それはこの話の最後にとっておきたいと思います。

そんなことを考えていた矢先、転機が訪れました。つがる市立図書館の館長として異動してほしいという話が出てきたのです。この頃、私は本当に幅広く仕事をしていて、地元の方々ともすっかり仲良くなっていました。朗読劇のサークルにスカウトされて、公演をしたこともありました。そうした活動がひと段落し、「これからは久慈市民として、もっと地域に関わっていけたら」と思っていたタイミングだったので、正直、後ろ髪を引かれる思いもありました。

それでも、第2期のスタートに向けた久慈市立図書館の準備をしっかりと終えた上で、異動を承諾する決断をしました。

そして、青森県に戻ってきます。つがる市は、2005年に五つの町村が合併して誕生した自治体で、来年2月にはちょうど20周年を迎えます。農業が盛んで、リンゴやメロンなどの特産品があり、縄文時代の遺跡が多く残るなど、文化的な魅力も豊かな地域です。

つがる市立図書館は、2016年7月29日に開館しました。私は当時、開館前後の3日間、岩手県立図書館のスタッフとして開館支援に入りました。それから7年経ち、今度は館長としてこの図書館に戻ってくるようになったのです。

人口3万人に満たない自治体ですが、開館から7年で来館者数は累計150万人を突破し、地域の教育・文化の中心施設として機能し続けています。まさか館長として任されるとは思っていなかったのが、正直驚きました。

当時のスタッフも多く残っていて、「初めまして」ではなく「久しぶりです」から人間関係を再構築できたことは、とても心強く感じました。着任初日には「ただいま」と声をかけ、皆さんが温かく迎えてくれたことを今でもよく覚えています。

7年ぶりに帰ってきたのですが、館内は非常にきれいで、設備も最新のものが整っています。除菌機やICチップはもちろん、利用者向けのインターネットやタブレットの整備も進んでおり、郷土学習講座などのイベントも開催しています。

また、この図書館はイオンモールの中にあるため、館長としての役割に加え、イオン側からは「店長」としての立場も求められました。月に一度の店長会議では、1カ月間の売上や運営状況について報告し合う場にも参加していました。

イオン内のテナントとの連携も特徴的で、例えばタリーズコーヒーの店長にイベント協力をお願いしたり、イオンモールの大ホールを活用してお話を開催したりと、商業施設との協働による図書館運営を実現してきました。

館長に就任したのは32歳の頃で、ちょうど会社に入って10年目でした。年齢についてはあまり気にしていませんでしたが、当初は「若いね」と言われることもありました。とはいえ、26歳で副館長のような立場に抜擢された経験もあり、年齢よりも役割に向き合う姿勢を大切に仕事に取り組んできました。

指定管理者の図書館員として、責任を感じながら日々研鑽を積んできました。個人的には、実力のある人はどんどん頭角を現していくべきだと考えています。特に、20代や30代の若い世代の中で力のある人には、積極的に声を上げて、私たちの世代からも業界を引っ張ってほしいと思っています。

そのような思いから、今日この場でお話しする機会をいただいたことをとても嬉しく思って

います。チャンスがあるなら、ぜひ挑戦してほしい。そして、私自身も挑戦を続けていきたいと考えています。

実務的な面では、館長職になってもチーフ時代と大きく変わらない業務も多くありました。ただし、責任と判断の重みはまったく異なります。現場に上位者がいない中で、図書館としての判断を自ら下す場面が増え、その責任の重さは想像以上でした。毎日が慎重な判断の連続であり、周囲の皆さんに支えられながら館長としての職務を果たすことができたと感じています。

異動については、数年で別の図書館に移ることもあります。それは打診があった際に受けるかどうかの判断によるところが大きいです。通勤距離や時間の兼ね合いもあり、分館と本館を行き来するような異動は比較的よくあると思います。ただし、自治体をまたいでの異動となると、あまり多くはないのが実情です。そのあたりは、実際に現場に入ってから相談によって決まることが多いです。

最後に、私が認定司書として認定されたことについてお話しします。

実務経験が10年を超えたことを機に、「挑戦したい」という気持ちが強くなりました。指定管理の職員として、いくつもの図書館を巡ってきた経験と知識を、何か“見える形”にしたいという思いが第一の理由です。

振り返れば、NPOに勤めていた頃は、雇い主からも「不安定な仕事」と言われるような状況で、特に最初の3年間は不安が大きかったです。だからこそ、この10年間の歩みが「正しい道だった」と自信を持って言えるようにしたい。その思いが、認定司書という形に結びつきました。

幸いにも、社内に認定司書取得のための勉強会チームがあり、そこに飛び込んで論文の添削を受けながら、自分の10年を整理していきました。その論文では、ボードゲームの取り組みをテーマにしました。山中湖での知識と経験が生きていて、認定につながったことに感謝しかありません。

そして昨年、日本図書館協会から正式に認定をいただきました。青森県では初めての認定司書ということで、新聞にも掲載されました。

業界に入って3年目から責任者としての仕事を任され、社歴も10年を超え、館長職まで経験させていただきました。最初の頃感じていた経済的な不安も、今ではある程度払拭できています。社会人としての仕事も楽しく、プライベートも充実しています。

そんな中で、20代を終え30代に入った今、次のステージを考えるようになりました。チーフの頃から想定していた進路は、図書館流通センターという企業の中での営業職やエリアマネージャー職でした。

1カ所の図書館で経験を積むことも素晴らしいですが、これまで積み重ねてきた多様な図書

館での経験を、より広いフィールドで活かしたいという思いが強くなっていました。それは館長職を任された後も変わりませんでした。

館長職も非常にやりがいのある仕事ですが、「もっと広いフィールドで挑戦したい」という気持ちは消えることなく、現在はエリアマネージャーとしての仕事に取り組んでいます。

営業とは何を営業するんですか、という質問がありました。指定管理の受託というのがありますので、募集があったときに、自治体に対して私たちが指定管理者として手を挙げて、受託獲得に向けた調整とか、図書館向け図書の販売ですとか、図書館流通センターの持つ商材を売ることが、営業部隊の役割ですね。

エリアマネージャーは、一言で言うと、これは図書館の後方支援、バックアップがメインです。私たちは指定管理であれ委託であれ、全国にたくさんの図書館の受託館を持っています。ノウハウを複数の図書館で共有できることは直営館に対する明確な強みです。自分がその間に入って、相談を受けたり、解決するための策と一緒に考えることが、エリアマネージャーとして働く上での面白さでもあると思っています。

私の担当エリアは北東北で、受託している複数の図書館に関わりながら、合理的な運営ができるよう支援を行っています。現場の課題に対して、図書館職員と一緒に考え、解決策を導く――それが今の私の仕事です。

当然、現場の館長さんたちと話す機会も多く、実務的な相談にも応じています。館長職まで経験したことがあるからこそ、現場の視点を理解しながら話すことができ、説得力や信頼感にもつながっていると感じています。エリアマネージャーになるまでに館長職を経験したことは、非常に大きな財産です。

また、指定管理の更新業務にも携わっています。多くの場合、3年から5年で受託更新のタイミングが訪れます。その際には、提案書の作成などを現場や営業担当と連携して進め、指定管理者として業務を獲得するための活動も行っています。

こうして、図書館の現場だけでなく、より広い視点から図書館運営に関わる仕事へとフィールドを広げてきました。

まとめです、指定管理で10年働いてみての感想を述べると、図書館流通センターに入る前は正直言って大変でした。雇用も不安定ですし、金銭面も苦勞もしました。これを下積みですねって言えば、聞こえはいいし美しい話ですけど、周りの新卒で社会人になった友達を見ると、この苦勞ってそもそも必要だったのかという思いはどうしても捨て切れなかったです。

とはいえ、岩手県立図書館以降は、雇用と給料が安定したので、図書館の仕事に打ち込んでいけるようになりました。異動しながらなので、引っ越しとかは大変だったのですが、10年、いろんな図書館で働き、図書館が変わるだけでも自分の中での図書館像っていうのは、

どんどん広がっていった知識も付くので、そういった部分は、認定司書が取得できたということへの裏付けになっています。専門性を高めながら、指定管理者としても働けると思っています。

この10年間、道筋らしい道筋っていうのはありませんでした。だからこそ、どうすればこの業界で働き続けられるのか、常に考えてきました。大きな企業だと、例えば5年でこのポジションとか、10年でこのポジションなら社内では最速だね、みたいな、そういった企業にありがちな目安っていうのもなかったです。一方で、芽を出していきたいという気持ちはあるので、このままずっと同じことを続けて働いていくのも、自分の中で思っている姿ではないなって思いもあって、自分なりに取り組んでいった結果、仕事を認められて今のポジションを任されるようになったと思います。

逆に、別のポジションに進んでいった方もたくさんいます。私がエリアマネージャーになったように、営業になった方とか、館長として図書館の道をさらに進んでいる方とかもいます。そのように司書として入り口が同じでありながらも、別の道も、雇い主を変えないで目指していけるってというのは、指定管理職員のいいところでもあると感じます。

今日の繰り返しになるんですけど、ここに登壇させていただくのは、これから図書館を目指していく、進路として考えていく方に、指定管理者の職員としてのリアルを伝えられると聞いたので、ここに立っています。あえて実務的な話題を中心に固めたのは、ぜひ、これぐらいなら自分でもできそうだっていうふうにしてほしかったんです。今の図書館は、冒頭の繰り返しで、働き方も働く場所も多様化が進んでいますので、この後、お二人の司書も登壇されると思うので、私とは異なる観点から事例が聞けるものだと思っています。

以上で、今日の私のお話はおしまいです。指定管理職員として10年間働いた私の経験が、皆さんのキャリア形成の例として、司書としてどんな仕事をしていくのかという実例として、今後の参考となれば幸いです。ありがとうございました。

NPO・企業が運営する
図書館で働いた10年
10年で5館勤務し、責任者になるまで

1

自己紹介: 菊池 晃成 (きくち こうせい)

出身

- 岩手県滝沢市

大学

- 都留文科大
- 図書館司書課程 修了

働く

- 山中湖情報創造館 (2013年-2014年)
- 岩手県立図書館 (2014年-2017年)
- 弘前市立図書館 (2017年-2020年)
- 久慈市立図書館 (2020年-2023年)
- つがる市立図書館 (2023年-2024年)
- 東北エリアマネージャー (2024年-現在)

第14期認定司書
(第1219号)
2024.04.01-

2

今日のおはなし

- ▶ 大学時代の私について
- ▶ 山中湖情報創造館のお仕事
- ▶ 岩手県立図書館のお仕事
- ▶ 弘前市立図書館のお仕事
- ▶ 久慈市立図書館のお仕事
- ▶ つがる市立図書館のお仕事
- ▶ エリアマネージャーのお仕事

3

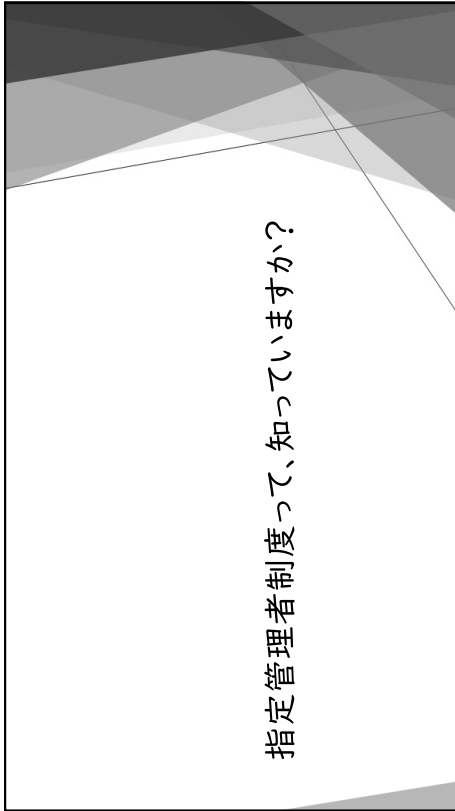
今日のテーマ

「図書館司書を志す人へ、今後のキャリアの参考として欲しい」
(今日は、いわゆる“図書館”的なお話はしません)

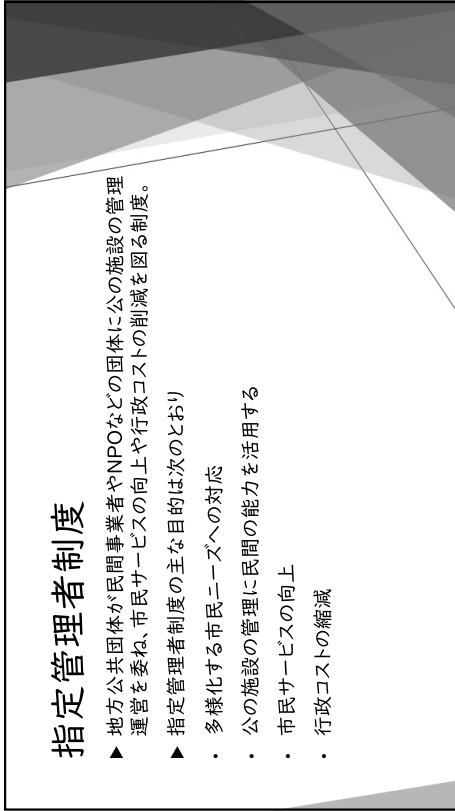
➔

Q: みなさんは、図書館で働いてみたいと思っていますか?
Q: 「図書館で働く」ということに、どのようなイメージを持っていますか?
今日のお話を通して、少しでも具体的に覚えてくださいます。楽しく、お話を聞いて下さい。

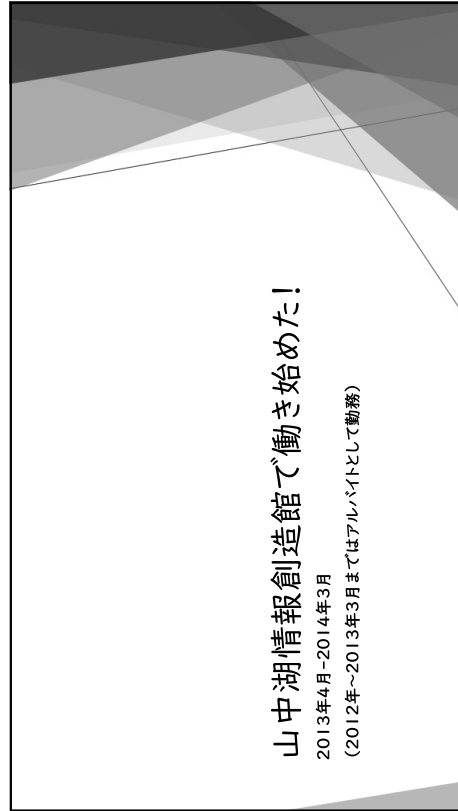
4



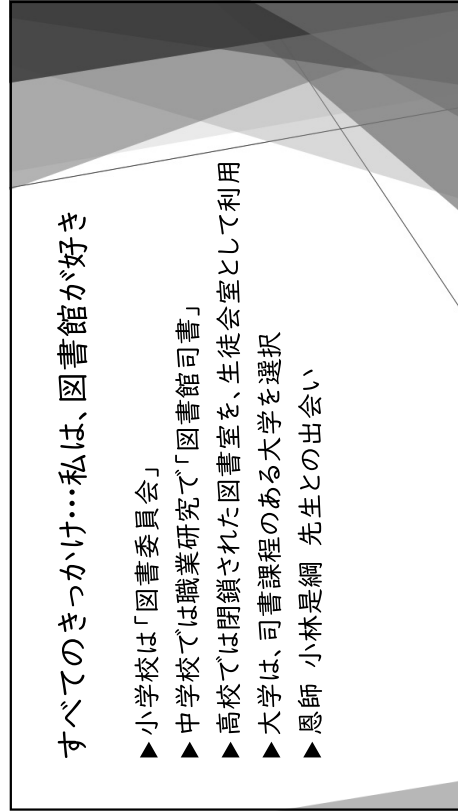
5



6



7



8

司書課程でのおはなし

▶ 在学中の進路選択

月曜5限、「図書館(基礎)特論」での小林是綱先生の言葉
 「社会的地位は高いが、その地位に見合った待遇はついてこない。
 それでも司書として働きたいのであれば、私は全力で君達の就活
 を支援しよう。興味のある人は、授業後に相談に来なさい。」


>> 教週間悩んだ末の「YES」
 >> 小林是綱先生は、まずは「小さな図書館で働きなさい」とし
 て、在学中はアルバイトで勉強、卒業後はそのまま1年
 働いてさらなる研鑽を積んだ。

9

山中湖情報創造館(山梨県・山中湖村)


図書館の概要

- ▶ 2004年開館
- ▶ 開館時間→9時30分~21時
 ※私のシフトは14時45分~21時15分(6時間+休憩30分)
- ▶ 国内初の民間組織が運営する公立図書館
- ▶ 「情報」「知識」「物語」にアクセスできる情報拠
 点(敢えて「図書館」という名前を外している)
- ▶ 全国誰でも利用可能・貸出冊数無制限
- ▶ 私の所属は「NPO職員」

外観(山中湖村HPより引用)

<https://libcomanansako.com/inst/0356>
 閲覧日:令和7年1月7日

10

山中湖情報創造館


内観(PORTA HPより引用)

<https://www.porta.jp/leisure/culture/26380>
 閲覧日:令和7年1月7日

従事した業務

- ▶ カウンター業務全般(貸出/返却/配架/レファ...)
- ▶ 雑誌の受入作業(書誌登録&装備)
- ▶ おはなし会の運営
- ▶ 「図書館でゲームをする日」の運営
- ▶ 動画制作
- ▶ フリーマーケットの運営
- ▶ iMacで、Adobeソフトを使った掲示物制作
- ▶ 山中湖マラソンの補助
- ▶ 施設の維持管理
- ▶ 小さい図書館なので、何でもやった

11

山中湖情報創造館

はじめての展示を作っている写真 影絵劇も行いました



 古民家の掃除も仕事です

- ・プログラミング教室
- ・「図書館でゲームをする日」
- ・ボードゲームを使ったイベント
- ・学習パズルの館内貸出

12

初めての図書館現場で学んだこと

- ▶とにかく、論文を書きなさい
→図書館をテーマにした論文を書くようにとの指導。論文を書くことを通して考え方を整理するだけでなく、先行研究を調査することで司書としての基礎的なスキルの醸成にもなる。
- ▶海外の図書館を学びなさい
→当時の館長からは、定期的に英語の文献を渡されていた。調べて読む、という過程は想像以上のインプット。
- ▶楽をするための努力を惜しむな
→「例えば、機械に任せられる作業は機械に任せる。その仕組みを実現するための努力を怠らないように。」「苦手だから出来ない」は勿体ない」と思い働いている。

13

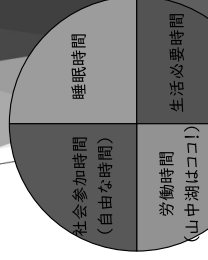
キャリアを進める上での最初の困難… 山中湖情報創造館の勤務時間

- ▶勤務時間→14時45分-21時15分(6時間+休憩30分)
・定後は、館長から図書館について色んな知識を教えてもらう日々。
※このときの知識の貯金は、今でも役に立っている。認定司書を取れたのも、山中湖情報創造館で務めたときの経験が活かしている。

14

NPO地域資料デジタル化研究会が提唱した 「新しい形の図書館整備」 ～働き方と司書のワークシェア～

- ▶勤務時間
◆早番：9時-15時30分
◆遅番：14時45分-21時15分
※いずれも6時間+休憩30分
▶なぜ、6時間？(文部科学省HPより引用)
「1日24時間の配分を、睡眠時間6時間、生活必要時間6時間、社会参加時間6時間とする、社会参加時間6時間が生まれる。この時間を使って自分の人生を豊かにすることができ(副業も可能、学習の時間も作れる)。また、これはワークシェアリングともなり、多くの司書有資格者の就業機会の拡大にもつながる。本会のスタッフは、この考えに賛同してくれたので、1日11時間30分の開館時間、月1日目のみの休館日が実現したのだ。」(文部科学省HPより)

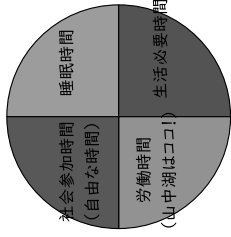


みなさんは、どう思いますか

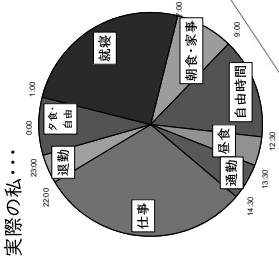
15

NPO地域資料デジタル化研究会が提唱した 「新しい形の図書館整備」 ～働き方と司書のワークシェア～

働き方



実際の私…



16

NPO地域資料デジタル化研究会が提唱した
「新しい形の図書館整備」
～働き方と司書のワークシェア～

- ▶ 給与も待遇も公務員並みというわけにはいかない。
- ▶ 入社時点で次のキャリアを確認されており、1年という約束で勤務を行っていた。
- ▶ 着任早々から、次の就職先を意識させられており、山中湖情報創造館での長期雇用は難しいと言われていた。
- ▶ 大卒初任給の平均を大きく下回る給与。約半年後、奨学金の返還も始まり、余裕がある暮らしは出来なかった。

17

山中湖情報創造館のまとめ

- ▶ 小さな図書館での勤務は、業務負担なども少なく、司書としてのスキルを幅広く学び、実践することが出来た
- ▶ 退勤後の勉強時間も含め、司書として働く今もこの経験は役に立っている
- ▶ 大好きだったキャンパスライフ。あえて都留に残った「大学5年生」
- ▶ 働いて半年後に始まる奨学金の返済
- ▶ 諸々覚悟の上で入ったが、それでも給料は少なかった
(生活はできるが、遊べない、買えない日々)
- ▶ 自信を持って言える「働いてよかった!!!」

18

岩手県立図書館で働き始めた!
2014年3月-2017年2月


19

岩手県立図書館

図書館の概要
沿革

- ▶ 1922年(大正11年)開館
- ▶ 1968年(昭和43年)新館開館
- ▶ 2006年(平成18年)新県立図書館開館(岩手県民情報センター・アイーナへ開館)
- ▶ 蔵書冊数:849,938冊(令和7年3月31日現在)

※いずれも、岩手県立図書館HPより引用



20

山中湖情報創造館と岩手県立図書館の違い

<p>山中湖情報創造館</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自治体人口：約5000人 ▶ 職員：8名 ▶ 給与：月給 ▶ 開館時間：9時30分～21時（11時間30分）※シフト制で2交代 ▶ 業務：分担当は無し。イベントは都度役割を決める他、雑誌登録や運書も全員で取り廻す。 ▶ チャレンジ精神が大事 ▶ 不安定 	<p>岩手県立図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自治体人口：約30万人 ▶ 職員：約50名※当時 ▶ 給与：時給※当時 ▶ 開館時間：9時～20時（11時間）※シフト制で3交代 ▶ 業務：「業務分掌」によって担当を明確に分けている。カウンターと事務作業の時間なども全て部門責任者がシフトをもとにタイムテーブルで管理。 ▶ 規律重視 ▶ 安定
---	--

21

岩手県立図書館

県立図書館での業務

- ▶ カウンター業務全般（貸出/返却/配架/レファ…）
- ▶ 相互貸借（貸出）
- ▶ 督促
- ▶ 情報システム担当
- ▶ おはなし会
- ▶ 動画制作
- ▶ 職場体験への対応
- ▶ 企画立案（盲導犬ワークショップ/濾過装置工作教室/影絵劇など）

22

岩手県立図書館

- ▶ 株式会社図書館流通センターへ入社
- ▶ “社会人”という実感
- ▶ 充実した規則と研修計画
- ▶ NPO職員時代にはなかった様々な安心感。
- ▶ 「県立図書館で働く」という勤務経験
- ▶ 山中湖と違って、担当ごとに別れたチーム
- ▶ 2年目以降、システム担当、児童担当の兼任、企画展の立案、などなど、色々任されるように

23

岩手県立図書館

自分の生活とキャリアを考える日々

- ▶ 契約スタッフであり、毎年雇用契約を結び直す形
→ 本先に生活が安定したのか？
- ▶ やり甲斐はある。夢も叶えた。では、その次はどうする？

24


弘前市立図書館への異動

2017年2月-2020年5月

25

キャリアの転機…異動の打診

- ▶ TRCへの入社から2年、業務にも慣れ、他の受託館への応援に出るようになっていた。
- ▶ 2016年7月、つがる市立図書館への応援依頼到着後、東北営業担当より「来年、弘前市立図書館が始まるから、異動しないか?」という打診があった。
- ▶ 悩みながらも、異動を了承



つがる市立図書館

26

弘前市立図書館への異動打診

- ▶ 弘前市立図書館への異動。社内では「チーフ」/弘前市立図書館では「業務主任者」

※自治体が設定した業務仕様に則って人材配置を行っていくため、所属館によって役割が異なる。

- ▶ 2017年2月に「指定管理準備室」を弘前市立図書館内に開設。
- ▶ 4月1日の新規開館に向けた様々な準備を進めていくことに。

利用対象：弘前市内在住者のみ→青森県内在住者
貸出冊数：6冊→無制限
など、ここでサービス拡充の方策に山中湖情報創造館のノウハウを入れていた。

27

開館前の準備期間(2月～4月)

- ▶ 市民の理解を得るための図書館市民フォーラムを実施。
- ▶ 4月1日以降の人員については、準備期間中に指定管理者が採用活動を開始。



28

リニューアルイベント(2017年4月1日~4月2日)

- ▶ オープニングイベントを実施
- ・地元絵本作家のワークショップ
- ・ボードゲームのイベント
- ・移動図書館車のお披露目会
- ・たか丸くん(ゆるキャラ)イベント
- ・FMラジオの生放送&動画配信

29

弘前市立図書館の仕事

初めての責任者としての仕事

- ▶ 業務責任者=副館長相当
- ▶ 年次計画書に記載した業務の消化
- ▶ シフト作成
- ▶ 資料費の管理
- ▶ 初めての選書発注
- ▶ スタッフのマネジメント
- ▶ 弘前市から引き継いだ仕事の整理

⇒ 残業時間が増大

30

弘前市立図書館の3年間

マネジメントスキル

- ▶ 言いたいこと、やりたいことを言うだけではダメ
- ▶ 責任者の仕事と必構え…「運営」という観点
- ▶ スタッフとの関係性の変化
- ▶ 自治体や関係機関との調整
- ▶ 基本的には「マニュアル(答え)がない」
- ▶ 教えてもらうではなく、自分で考えて行動する

実務的なスキル

- ▶ 各種報告書作成の技術
- ▶ ビブリオバトル(講演も経験)
- ▶ PC操作の知識
- ▶ 勤怠・経理の処理方法と考え方

責任者の仕事が増えるにつれて現場から離れていったが、やりたくないことをやっているという感覚でもなかった。

31

大学生の頃の私

2009年4月-2013年3月

32

都留文科大学 児童文化研究部

- ▶ 歴史：入部時点で55年の歴史
- ▶ 4班それぞれが活動している
- ⇒ 影絵班「ほしのこ」/児童文学班「碧空」
地域こども会班「おおきなかぶ」/人形劇班「わたぼうし」の4班に分かれて活動。
- ▶ 理念「子どもよりよい成長・発達を願い、子どもにとってもっとよい文化とはなにかを考え、普及する。」
- ▶ 入部前は「部会が月曜日だけだから!楽しいよ!」
→入部後は「部活は義務で大学は権利」
- ▶ 全国的に同様の部活が存在
- ▶ 平成21年度に文部科学大臣表彰受賞

33

児童文化研究部 影絵班 ほしのこ

- ▶ 影絵劇を通して子どもたちに想いを伝える。
- ▶ 創作の影絵劇を中心に、手影絵、影のあてっこなどを行う。




34

児童文化研究部 スケジュール

月		火	水	木	金	土	日
12:00-13:00 ひびろろ 18:00-21:00 部会	18:00-21:00 部会	18:00-21:00 部会	19:00-22:00 つる子どもまつり ※終年度交流会	8:30-12:00 子ども会 14:00-21:00 部会	8:30-12:00 文庫活動 14:00-21:00 部会の部会		

普及活動期		総括期		方針期		甲冑期間																	
4月	新歓 つる子どもまつり準備 みくまきまつり(土曜)	5月	つる子どもまつり	6月	夏の巡回公演会場下見	7月	巡回講演会登壇 子ども講演会登壇 みくまきまつり	8月	巡回公演(巻4 4日) 館・図書館・市民会館(専大・専大) 社会福祉協議会(専大)	9月	八潮祭りの運営補助	10月	学際講演会準備	11月	総括	12月	子ども会クリスマス会 まぶたのクリスマス会 児童演劇大会	1月	総括 次年度の活動計画策定	2月	春休みの依拠公演(春休) 施設を図書館社会福祉	3月	春休みの依拠公演(春休) 施設を図書館社会福祉

他、公演前などは授業の合間に手遊び等の練習を実施
慶應義塾大学・帝京大学・中央大学・青山学院大学・埼玉大学などにも同様の部活があり、技術交流も実施

35

児童文化研究部を通して身につけたこと

- ▶ 影絵劇を上演するためのノウハウ全般
- ▶ ぶんこ活動を通して読み聞かせの技術
- ▶ 子ども会活動を通して手遊びのレパートリー
⇒ 全てが、図書館の仕事に繋がっている
- ▶ 部活動の膨大な拘束時間を耐えた強靱なメンタリティ
⇒ 「あの頃よりは、時間がある」という考え方





36



久慈市立図書館への異動

2020年6月～2023年3月

37

図書館の紹介

☆基本情報

- ▶ 名称 久慈市立図書館
- ▶ 開館 2020年7月5日
- ▶ 延べ床面積 1,313㎡
- ▶ 構造 鉄骨造3階建て(図書館は2・3階部分)
- ▶ 蔵書数 約10万冊(令和5年度末)
- ▶ 複合施設YOMUNOSUの中にある
- ▶ 建物全体の管理は、久慈市観光物産協会

38


人事異動は突然に…

- ▶ 2020年4月、館長に「話がある」と言われ、異動を打診された
- ▶ 現在準備中の久慈市立図書館に異動してほしい、とのこと
- ▶ 5月中に大急ぎで引き継ぎを終え、新居を決めて異動

39

開館準備中の仕事

- ▶ 各種契約先の変更
- ▶ マニュアル整備
- ▶ 移転後の資料のチェックと蔵書点検
- ▶ 配架図の登録
- ▶ オープニングイベントの準備



建物の屋上 円形の塗装は読み聞かせ室想定

40

久慈市立図書館の仕事

- ▶ 募集要項上は「副責任者」社内的には「チーフ」
- ▶ ソフト作成、勤怠管理
- ▶ 経理業務(予算執行状況の確認)
- ▶ 資料費の管理
- ▶ 年間計画の進捗管理
- ▶ 私と館長以外は全員、新入社員(直営時代からのスタッフは3名)
- ▶ 新館移転後の図書館がそのまま指定管理になったので、マニュアルは全て作成
- ▶ 同じ仕事を、より早く仕上げられるように成長!

弘前市立図書館時代に苦勞した反省点を大いに踏まえ、同じ業務内容だからこそ、同じ失敗を繰り返さないように意識。
また、弘前市立図書館時代の経験がどれも役に立った。
(ひと通り経験したので、“知らない業務”は基本的に無い)

41

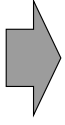
久慈市立図書館は面白い!

- ▶ やりたいことにチャレンジ出来る環境

⇒物産協会との連携を通じた事業とすることで、同じ「読書推進」という切り口でも、出来るものが広がっていた。

- ▶ 自分の成長

⇒弘前市立図書館3年間の業務を通して、専門知識、自治体との付き合い方、事務処理の速度等の練度等が向上。「業をすすめるための努力」を惜しまなかった結果が徐々に実ってきており、忙しいなりに余裕が出てきた。
責任者として、ビジョンを示したり、目標を伝えたりすることが出来るように。



やりたいことを、やるしかない!

42

久慈で取り組んだこと

- ▶ 電子図書館サービス

⇒電子図書館を導入。初期コンテンツの選書から、要項の策定、システムの運用方法の設定などを担当。

- ▶ 電子雑誌サービス


⇒電子雑誌読み放題サービスを導入。館内のWi-Fiに接続していれば、個人端末から雑誌の閲覧が可能に。

- ▶ ボードゲームの貸出

⇒山中湖の頃の取り組みをベースに、ボードゲームイベントを実施。その先の「貸出」まで行っている。
まだまだ…

43

ここでも影絵劇をやりました!



- ▶ぬいぐるみのおとまり会で実施
- ▶「影絵紙芝居」を市内小学校より借用

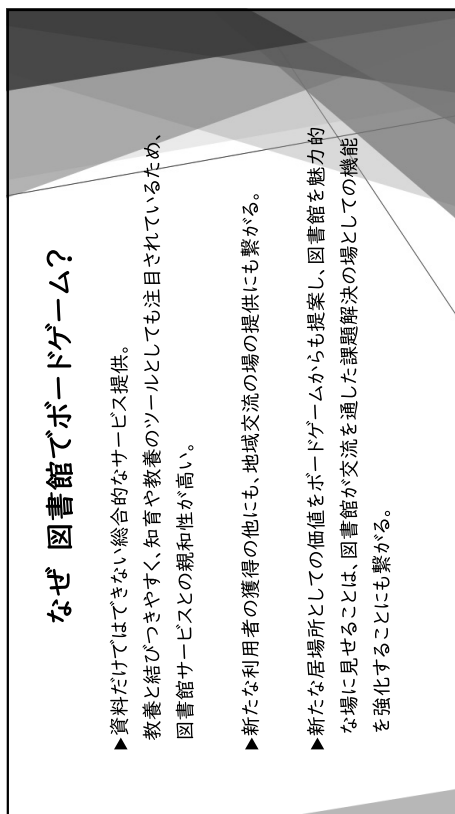
44



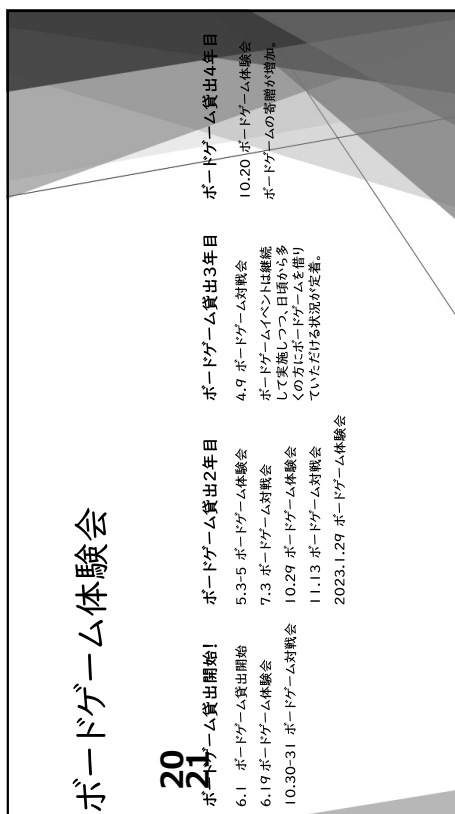
45



46



47



48


久慈市立図書館のボードゲームの貸出について

- ▶ 貸出：2週間/一人一点まで
- ▶ 開始日：2021年6月1日～
※おそらく県内2例目
- ▶ 対象：図書館利用者
- ▶ 最初に準備したボードゲーム
 - ・ガイスター ・ラブレター ・ごきぶりポーカー ・ナンジャモンジャ
 - ・ウミガメのスープ ・ペンギンパーティー ・カタン ・NEU ・侍石 など
- ▶ OPAC上で検索が可能。
- ▶ 独自に準備した確認用の書類を用いることで、内容物のチェックを容易にした。
- ▶ 私の勤務期間において、紛失で困ったことは無かった。

49

持ち込み企画「ミニ四駆」

- ▶ 「ミニ四駆」をテーマにイベントをやりたい
久慈市にはTAMIYAが認めるミニ四駆コース100選に選ばれた金属コースがあった。
観光物産協会に主催となってもらえば、イケるので「は…?」と思い、持ち込み企画として提案。⇒実現。
- ▶ 共催事業として工作教室を担当
地元のホビージャパンに依頼し、工作教室で使うミニ四駆組み立てキットを調達。
参加する子どもたちを対象とした工作教室を行い、付加価値として参加者には決勝トーナメント参加シード権を付与。

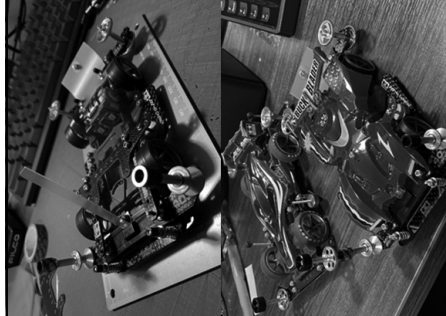


お問い合わせ：情報交流センター YOMUNOSU 館
TEL: 0194-52-7777 URL: <https://yomunosu.kul.jp>

50

持ち込み企画「ミニ四駆」

- ▶ 「ミニ四駆」をテーマにイベントをやりたい
久慈市にはTAMIYAが認めるミニ四駆コース100選に選ばれた金属コースがあった。
観光物産協会に主催となってもらえば、イケるので「は…?」と思い、持ち込み企画として提案。⇒実現。
- ▶ 共催事業として工作教室を担当
地元のホビージャパンに依頼し、工作教室で使うミニ四駆組み立てキットを調達。
参加する子どもたちを対象とした工作教室を行い、付加価値として参加者には決勝トーナメント参加シード権を付与。



51

「YOMUNOSU CUP」

- ▶ ヨムノスカップの実現
当日は、多くの参加者がYOMUNOSUへ。
- ▶ 新規利用者の獲得に繋がった
参加者は父親と子どもという組み合わせが多く、普段は母親の来館が多い久慈市立図書館において、新規利用者の獲得に繋がっていた。
- ▶ 大好評
市内広報に取材されるなど、利用者・自治体の評価も高く、2回実施した。第3回に期待したい。



52

初めての「指定管理更新」

- ▶ 2020年7月～2023年3月までの契約
- ▶ 2022年夏、指定管理者の公募が出る
- ▶ 自身としても初めて提案書の執筆を任された
- ▶ プレゼンテーションの末、無事に指定管理更新
- ▶ 第二期は2023年4月から5年間

53

次のキャリアに向けた準備

- ▶ 「チーフ」業務6年、そろそろ次のステージに進みたい
→ 自分の将来を再度考えることが多くなってきた。
- ▶ 自分の仕事の「マニュアル化」
→ 人のマニュアルは作るが、責任者という業務の性格上、マニュアルは存在しなかつたため、自分で後任向けのマニュアルを作成。
- ▶ 後任の育成
- ▶ 人事評価時に、「将来、何になりたい?」という質問への明確な答えを準備。


54

久慈からの異動

- ▶ ついに、館長職の打診
⇒ チーフとしての経験も徐々に深まってきた2023年の2月頃、「つがる市立図書館で館長をやってほしい」との電話が入る。
- ▶ 指定管理更新
⇒ この頃、久慈市は最初の指定管理更新を終えたばかり。(2020年7月～2023年3月までの契約で、その後は同年4月から5年間の契約)
- ▶ プライベートが…
⇒ 図書館の繋がりが朗読劇サークルに入っており、私の初公演を終えてすぐの異動となってしまった。根を張って3年。芽が出てきた時期のことだった。

55

つがる市立図書館



2023年4月～2024年7月

56

施設概要

- ▶ 名称:「つがる市立図書館」
- ▶ 床面積:1,606㎡
- ▶ 蔵書数:約11万冊
- ▶ 開館時間:午前10時から午後8時
- ▶ 休館日:毎月最終月曜日(年間開館348日)
- ▶ 館内設備:ゲート監視システム、自動貸出機
- ▶ 書籍検索機、図書除菌機、貸出用タブレット
- ▶ 特徴:回遊型レイアウト/カフェの併設/本とふれあいやすく、居心地のいい空間を提供。/農業、就労に関する資料の充実/デジタル学習教材を導入

57

つがる市立図書館

58

つがる市立図書館の設備

図書除菌機

- ・紫外線と風を当てて本についた汚れやにおいを取り除く
- ・開館時は県内初の設置
- ・不特定多数の利用が思いになる方などに向けた設備

自動貸出機

- ・ICチップ入りの本を自動で読み取り、貸出ができる機械
- ・利用者のプライバシーに配慮
- ・稼働率はほぼ100%

タブレット

- ・1日1回(60分)利用可能
- ・インターネット閲覧可能
- ・農業に関するDB(ルール電子図書館)が利用可能

セミナー・学習室

- ・BGMが流れないので静かに読書や勉強ができる
- ・読み聞かせの研修、読書に関する会議などに使用可(無料)

59

郷土学習講座

- ▶ 主催:つがる野文庫の会
- ▶ 時期:開館翌年度(2017年)より実施
- ▶ 事業内容
 - 読書に親しみ、教養・情報入手に資するため、図書館支援事業としてつがる市の歴史・文化・産業・先人等に関する地域文化の創造拡充を目的に開設。
- ▶ 実施した講座(一例)
 - 「地域における“FM放送”の役割と魅力」
株式会社五所川原エフエム 代表取締役
 - 「地域との共存共栄を目指して」
イオンモールつがる柏店 ゼネラルマネージャー

60

つがる市立図書館で実施したイベント

つがる市立図書館 大選書フェア
「つがる市立図書館」の選書フェアを開催しました。

2017.07.28、図書館クエスト
「つがる市立図書館」のクエストを開催しました。

2018.07.22、クイズコーナー「読書に
よる"コトヒー"ができるまで」

2019.07.27、イオンモールでおはなし会

2020.11.07-3館共催企画「いぶなアリー
(つがる市立/五所川原市立/中泊町)

2021.07.29、図書館川柳

2022.07.26-西北五文学散歩

61

初めての館長

- ▶ 館長になった
- ⇒ 館長就任は32歳。ちょうど10年の節目であった。
- ▶ 館長業務は難しい
- ⇒ 実務的な部分はチーフ時代から変わらない部分も多いが、判断と責任において現場には自分の上位者が居ないため、今まで以上に慎重な判断を行うようになった。
- ▶ 責任が「広がった」
- ⇒ 館における最終的な責任を背負う覚悟。収支計画から決算報告まで一連の予算執行を把握するなど、チーフから一段と業務の守備範囲が広がった。
- ⇒ 外部からも「館長」として見られることが多くなり、自治体からの相談や図書館協議会での発言にも重みが増していることを実感。
- ⇒ チームリーダーとして、ビジョンを伝えることに一層注力。

62

つがる市立図書館での仕事

- ▶ 募集要項上は「業務責任者」 社内的には「館長」
- ▶ 勤怠管理
- ▶ 経理業務（予算作成、決算報告、進捗確認等）
- ▶ 資料費の管理
- ▶ 提案書の作成・進捗管理
- ▶ 職場環境の改善
- ▶ 図書館協議会ならびにつがる市読書推進連絡協議会へ現場責任者として出席
- ▶ 現場責任者として本社との折衝

弘前・久慈を経て大きく成長したと感じていたが、館長業務をチーフと比較した際、業務の幅以上に責任が重くなったと実感。立ち上げの応援に行った館ということもあり、みんなに支えられながら館長を務めた、と感じている。(感謝)

63

終わりに…10年経ちました

2023年4月～2024年9月

64

認定司書に認定されました

- ▶ 認定司書とは？
日本図書館協会が公共図書館の経営の中核を担う専門的職員として認定した司書。
- ▶ 認定司書になるには
・図書館の勤務経験が通算で10年以上であること。
・研修の受講経験(研修・大学等での講師経験/図書館振興に向けた各種の社会的活動など)を通して20ポイント以上あること。
・最近10年間に著作を発表、またはそれに相当するものを有している。(8000字以上)
- ▶ 10年目の挑戦
・自分の10年間に形にしたかった
・徐々に現場から離れる仕事も増える中で、「司書」として一段レベルアップしたかった。

65

館長業務の傍らで…

- ▶ もともとなりたかかった指標
自分のキャリアを考えた時に、館長と合わせて、別に考えていることがあった。
せつかくのチャンスなので、経験をさらに広く活かせるようなフィールドに出たかった。
- ・営業
- ・エリアマネージャー
- ▶ エリアマネージャーになった！

66

エリアマネージャーの仕事

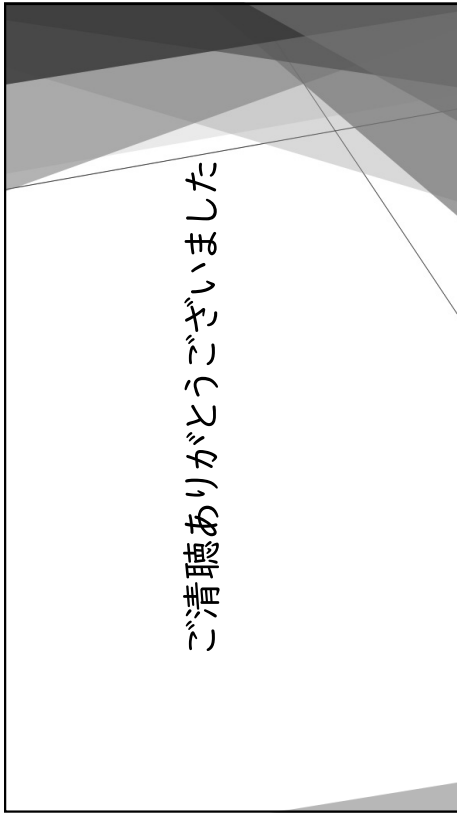
- ▶ 担当館は北東北(青森秋田岩手)の受託館
北東北は私一人だが、他のエリアのエリアマネージャーとも連携して仕事を進めている。
- ▶ ひとことと言うと「各館の後方支援」
⇨ 会社の方針を、現場に伝える仕事であると理解している。その他、実務的な部分での相談事は全般的に引き受けている。館長までひと通り経験したことが、役に立っている。
- ▶ 指定管理更新にも関わります
⇨ 一般に3~5年で受託更新となるが、その際の提案書作成に関わっていく。

67

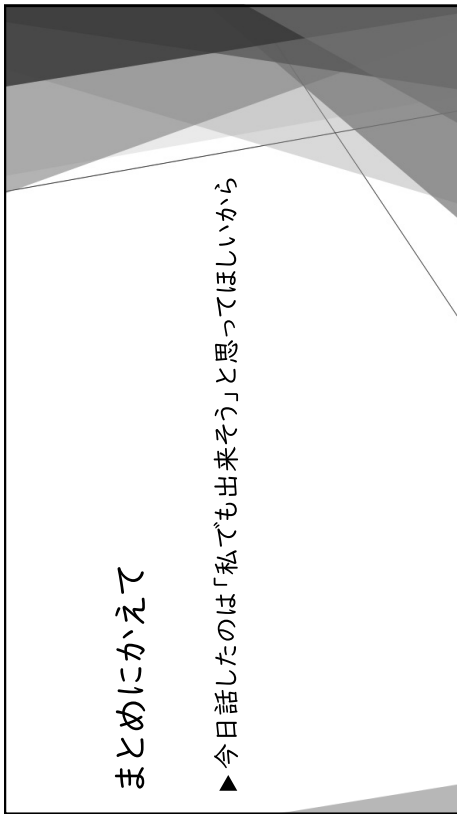
10年図書館現場で働いてみて

- ▶ 最初は大変だった
覚悟を問われて入った業界だったが、雇用の不安定さと金銭面では苦勞した。
異業種に就職した友人たちを見ていると、この苦勞は必要なのだろうか…と思ったこともあった。それでも、真正面から取り組み続けた。
- ▶ やり甲斐はある
自分のキャリアアップとともに会社の人事制度も変更が加わり、徐々に雇用状況も安定。安心して図書館の仕事に打ち込んでいる。

68



70



69

講演2

公立図書館司書のキャリア形成

～社会教育施設としての図書館～

一関市立一関図書館 熊谷 遥 氏

熊谷 よろしくお願ひいたします。岩手県一関市立一関図書館から参りました、司書の熊谷と申します。今回は、公共図書館司書のキャリア形成と題しまして、私の経験の話をさせていただきたいと思ひます。まず自己紹介を軽くさせていただきます。平成12年生まれです。だから今、24歳ですね。小学校は福島県におりまして、高校、大学は岩手県です。中学校のときに宮城県に住んでいて、多賀城市に住んでいたのですが、実は多賀城市に住んでいたときに、中学校の職場体験で多賀城市立図書館に行ったんです。今のスタイルの図書館じゃなくて、まだ前段階のときの多賀城市立図書館に職場体験に行きました。現在は、岩手県の一関市で勤務しています。一関市はどの辺かと言ひますと、岩手県の最も南の辺りにある、岩手県の中では宮城に一番近い市です。

経歴ですが、大学は盛岡大学を卒業しまして、その際に中学校と高等学校の教諭の一種免許を取得しまして、あと司書資格を大学で取得しました。追加で、放送大学で司書教諭の資格も取っておりまして、こちらの資格をフルに生かして、卒業して次の4月、令和5年の4月から令和6年の3月までの1年間、岩手県の盛岡市立高等学校という所で、常勤講師の立場で学校司書兼国語教員として勤めておりました。この盛岡市立高等学校というのは私の母校になりました。高校時代に通っていた学校です。その翌年、令和6年の4月から岩手県の一関市の職員の専門職、司書として採用されまして、一関市立一関図書館に配属になりました。大学を卒業してからまだ2年しかたっていないので、キャリアとしても道半ばといったところなのですが、今回は大学生の皆さんとは割と近い年代の若手の図書館司書として、これまでのことを話していきたいかなと思っております。

本日の流れといたしましては、最初に高等学校の司書と教員やっていた時代の話をして、次に公共図書館司書になってからの話。最後に、正規の図書館司書になる際の基本的な流れをお話させていただきます。ついこの間まで転職活動と就職活動をしていた身として、正規の図書館司書になる道筋というのを、私の視点から話させていただきまして、最後に図書館司書というものの在り方などについて、話していきたいと思ひます。

まず、高等学校の司書と教員をやっていたときのお話です。盛岡市立高等学校の図書館司書として働いていましたというお話をしましたが、この盛岡市立高等学校というのは、盛岡市が運営している高等学校になります。なので、盛岡市の職員ということに一応はなっているの

すが、常勤講師という立場なので、フルタイムの臨時採用職員です。これ、フルタイムじゃないものは臨時講師っていうことになるのですが、私の場合は、他の教員と同じ常勤、フルタイムの職員として盛岡市立の高等学校に勤務にしておりました。

基本的に他の教員と同じような勤務体系になっていまして、教員志望の方はご存じかもしれませんが、残業代は出ませんが、その分ちよびっと手当てが付くというような形になります。教員っていうのは割と残業が多いお仕事だということは、知れ渡っているかなと思いますけれども、常勤講師という非正規の職員であっても、残業は結構しているのが現状ですね。私の場合は岩手県の教育委員会から声を掛けられまして、その後、盛岡市の教育委員会に雇われるという、ややこしい形になっているのですが、自治体職員っていうのは割とそういうところがあります。教員というのは県で採用されるのですが、盛岡市立の高校なので、盛岡市の職員として盛岡市に雇われるというような形になります。教員としての仕事負担は軽くなっているのですが、授業とか進路指導とか、私も実際に、進路についての相談とかを生徒から受けて、その指導をしたりとか、添削をしたりとか、そういったこともしていましたし、委員会とか部活動の指導も行います。なので、軽くした教員の通常業務に、司書の仕事を単純にプラスしたというような形になります。

図書館の運営は司書教諭で、学校内では図書課というのがありますので、その先生がたと一応、図書館は回していくよという話にはなっているのですが、実際のところ基本的に図書館の業務は、司書が行うような形になっています。司書教諭は司書教諭で、別の仕事があるといえますか、他の教員と連携を取ったりですとか、最終決定したりとか、そういうことをやっていました。司書は司書で、資料の管理とか整理とか、そういったことを中心的にやる形になります。学校司書として必要な条件としては、まず司書教諭の資格を持っていることと、高校の教員免許を持っていることでした。なので、司書資格は必要なかったということです。あくまで勤務するときの身分というのは、学校司書という形になる、不思議な形式になっていました。ただ、岩手県の他の学校図書館を見ると、これはイレギュラーな例です。まず常勤講師として学校司書を雇うということが、珍しいと思います。

主な仕事内容ですけれども、学校司書の仕事として、購入する資料の選書ですとか、学校図書館で使うような備品を購入する業者とのやりとりですとか、予算とか管理とかも含む事務作業ですね、こちらをやったり、あと図書館だより、新刊案内、統計を出したりという仕事がありました。あとは、学校図書館の直接サービスですね。こちらは想像どおり、カウンター業務ですとか、レファレンスとか、展示の更新ですとか、配架とかそういった形のものです。あとは、書架整理とか、除籍資料の選定みたいな資料管理仕事と、ラベル、バーコードの作成です。これは何かと言いますと、本屋さんにブックコートやラベル付けなどの装備はしてもらって

るんですけども、ラベルとバーコードに関しては、こちらからお渡しして付けてもらうという形になっていたのですが、購入する度に注文書と一緒に、あらかじめ作成したラベルとバーコードを渡す形になっていて、それをその都度、作っていました。あとは寄贈資料については、自分で装備するしかないですので、長期休みとかを利用してブックコートかけたりして、装備をしていました。

あとは書誌情報の編集ですね。こちら、本屋さんから書誌情報自体は、送られてくるんですけども、こちらを編集して学校図書館で使う形に直して、システムに入力するという形になっておりました。施設の管理もおこなってまして、図書館内の清掃ですとか、温度、湿度の管理等と、授業で活用する際の支援と、図書委員会の指導も行っていました。閉館時間は17時まででしたが、そのときまでは現場監督で、私が帰るときが閉館時間という形に実際のところはなっていました。実は7時間授業とかだと、17時までだと使えないっていう生徒が出てくるんですよ。なので、あんまり大きな声では言えないのですが、実際は2時間くらいオーバーして開けていたので、19時とかまで開けていました。こちらの図書館司書の日々の業務にプラスして、試験作成とか成績評価とかも含む週4コマの国語の授業と、あと、担任とかではないんですけども、各先生に割り振られているクラス担当とかの業務、こういった仕事とかもやっておまして、割と日々、いっぱいいっぱいというような形です。教材研究とかもしなくてはいけないのですが、なかなかする時間がなくて、家でやっていたりしましたね。試験の丸付けとかも全部、一緒にやっていました。

こういった形だったのですが、新しいことも始めたりもしていました。まず、前任者から引き継いだときに、書誌データの編集っていうのを全部手作業で、手打ちでやっていたんですけども、これは時短化のためにエクセル関数で自動的に編集されるように、システムっていうほどでもないですけど、仕組みづくりをしました。あと、あったことにはあったけども、ほこりをかぶった、ほぼ使っていない資料の物置みたいになっていたような閉架書庫の整理を、大学と連携して、大学生に手伝ってもらってやっておりました。

あとは企画展示の工夫ですね。『学校図書館』っていう雑誌、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、そちらの事例とかを見て、これは今からでもできそうだなって思うのを拝借して実際にやってみるということをやっていました。他にはメイカースペースっていうのを設置しましたね。これは、ちょっとしたワークスペースみたいなものなのですが、折り紙とか置いたりして、楽しめるような場所をつくったりもしました。あと、蔵書の選定基準の作成ですね。除籍基準はあったのですが選定基準はなかったので、司書教諭からの申し出もありまして、盛岡市立図書館の選定基準を元にして、学校図書館用に作り変えてっていうような形で作っていました。

あとは図書館利用案内の作成。こちらは、この学校は新入生に1時間、図書館の使い方を説明する時間というのがありまして、その際に配るように利用案内を作ったのですが、その後は結構使えるかなと思って、常時、図書館に置いておくようにしておりました。ほかに、文化祭での生徒の作成物の展示です。文化祭はですね、それまでは図書館は文化祭の時に閉めることにしていたのですが、今回は開けるということにしまして、開けて生徒に書かせたポップと一緒に、資料の展示とかをしたりしてみました。

また、委員会の生徒用と自分用業務日誌を作成しまして、何人、人が来たか記録を付けるようにしました。開架の作業としては、一部資料の配置替えとか、別置の解体と並べ直しをしました。別置が極端に多い学校図書館だったので、そちらを並べ直していました。インターネットで回答できるアンケートを作成しまして、決裁を取って、実際に生徒に答えてもらうっていうような形で、利用者アンケートも実施しました。

このように、業務量が多いんですけども、ほぼ一人仕事であるために、自由度は結構、高い職場だったかなと、今、振り返って思います。いろいろなことが、新しく始められる環境ではあるということですね。学校司書の仕事と教員の仕事を両立していましたので、スケジュールは結構きつきつになっていました。ちゃんと明記しておいたほうがいいかなと思って、業務日誌のほうは作りました。生徒向けに作ったものとしては読書記録のカードや図書館新聞ですね。メイカースペースはコップを作るためのペンとか、いろいろ置いてあったり、折り紙とかも置いてあったりしました。高校生なのにやるのかって思うかもしれませんが、家庭科の保育関係の授業とかで、折り紙とかは割と使うみたいで、その辺の授業になると、結構みんな使ってくれていました。文房具が借りられるみたいな、そういうような意図もありまして、場所をつくっておきましたね。

利用案内は一から自分で作ったのですが、三つ折りにして持ち歩けるようにしまして、表のほうは開館時間とか、利用、普通に貸出冊数の制限ですとか、NDC、利用できるサービスが書いてあります。裏には館内案内図が付いているという形になります。

仕事の特徴なんですけれども、学校図書館の維持管理から利用者、生徒に対するサービスまで、ほぼ一人で全てをこなす仕事ですので、必然的に、その職場の誰よりも図書館の知識があるということが求められます。これは正直、私、新卒でここに入ったので、割と厳しい面はあったかと思えますけれども、どうしようもないですので、何とか調べ調べやるしかなかったですね。あと、ほとんど一人で仕事をするので、学校内では孤立しがちというのは、どこの学校図書館でもあるのかなと思いますし、前任者さんからもそういった話を聞いておりました。これは結構、問題なのですが、周囲の先生がたは図書館の専門家ではもちろんありませんので、図書館についての意識とか、熱意とかのずれっていうのが大きいので、仕事について理解

されないことも結構ありました。

私が実際に、その場の職員2人になったときに他の先生から聞かれたことは、どうして国語の授業を4コマだけにしようと思ったの？って聞かれたことがあります。これ以上、仕事を増やしたら死んじゃうって思いましたけれども、そんな感じで、学校司書が何をやっているのか全然、知らないし、ほぼ知ろうともしていないみたいなレベルの先生がたも実際、多いですし、だからそういう質問が出てくるのですが、このように理解されないことも実際ありました。

あと、自分しか司書がないので、自分がないと図書館が開けられないという状況になります。休む場合は細かく指示を出して、他の先生に開館してもらうしかないのですけれども、そういう状況になってくると、年次休暇とか取りにくいし、休みにくいってような状況になります。これについては、他の先生がたも授業があるので、休みにくいのは休みにくいのですけれども。あと、周囲との連携というのはもちろん大事ですが、先生がたも忙しいので、あまり協力関係は築けていませんでした。どっちかという、事務員さんとのほうが話しやすいというか、割と協力して、事務員さんと仕事していたというような形になりますね。

あと、その場に指導役の先輩とかはいませんので、図書館員の経験がない状態から、いきなり学校図書館ってというのは、実際、厳しいのではないかなと思います。私の場合は、新卒ではあったのですが、母校ですので、前任者は私が在学中にも学校司書をやっていました方で、割と仲が良かった方だったので、密に引き継ぎをしていただけだったので、何とかあったのですが、それがないと、だいぶ厳しいのではないかなと思いました。実際、引き継ぎの資料とか作るのも大変でしたので、図書館経験ある方が学校司書になったほうがいいかなってというのは、私は正直、思いますね。こちらが、学校司書と教員っていうのを両立していた立ち位置でのお話でした。

次、公共図書館の司書になってからというお話です。正規の職員として一関市立一関図書館の司書になってからのお話です。まずは、概要を話させていただきます。一関市立一関図書館ですけれども、こちらは市の直営の図書館です。市内に8館、図書館がありますが、全て市直営になっておりまして、全ての図書館で市職員が働いております。建物としましては3階建てです。1階と2階は利用者さんが使えるスペースで、3階は閉架書庫になっております。蔵書冊数は約39万冊です。これは一関図書館だけで39万冊で、他にある7館の図書館の資料を全て合わせると、大体100万冊くらいになるはずですよ。図書館内には児童スペースとか学習室とか、あと飲食ができるスペース、コンセントが挿せるPC席もありまして、児童コーナーには授乳室と子ども用のトイレも設置されています。開館時間ですが、平日は10時から20時まで、土日祝日は10時から19時までです。直営の図書館では結構、長いほうかなと思います。貸出については冊数の制限はなくて、DVDは5点までという制限がありますが、その他はいくらでも借りられます。貸出期限は3週間になっています。予約などはネット上で可能で、一度に15点ま

で予約できまして、コミックとDVDは5点までです。利用者カードは、一関に在勤、在住でなくても作成ができます。なので、どこに住んでいても住所さえあれば作れるという形になっていて、実際に宮城県とか、一関市の隣の奥州市ですとか、そういった所にお住まいの方も、割と利用者カードを作って、借りに来ていただいています。

あと、県内では珍しいほうかなと思いますけれども、電子図書館があります。電子図書館を契約しておりまして、利用は市内に在勤、在住の方のみなんですけれども、どこでもログインすれば、電子図書を借りて読むということが出来る形になっています。

館内にオンラインデータベースとWi-Fiは入っておりまして、基本的なサービスは完備されているかなと思います。あと駐車場は無料です。これは結構、満車になることも多くて、それが苦情につながったりもするので複雑なのですが、利用者さんからはおおむね好評ですね。あと、市内に他に7館の図書館がありまして、その図書館と常時、連携を取っております。各図書館の資料をどこでも返せるというのが特徴でして、例えば、一関図書館で借りた本を、市内の他の図書館に返すということも可能となっております。さらに、他の図書館で予約した資料を、一関で受け取るということもできます。

あと移動図書館車を持ってまして、各コースを月1回くらいで巡回しているので、週に何回か移動図書館車が走っています。これ、専用の運転手さんも雇っております。

司書としての身分ですけれども、私は今年度の4月から正規の市職員、専門職として一関図書館に勤務しております。前年に、学校図書館で働きながら採用試験を受けまして、受かって4月から勤務という形になっています。立場が市職員です。正規の市職員ですので、一般職として採用された他の市役所に勤めているかたがたと一緒に、同じ職員研修というか、新採用研修とかを受けます。なので、図書館とは言いつつも、他の一般職の事務方の職員、そちらの方と同期という形になります。あと、市役所の職員と同じ共有システムを使っています。掲示板とかのシステムでいつでもやりとりができるようになっています。実際、他の課からレファレンスを受けたりするということが時々あります。

あと司書採用ってというのは、図書館司書として図書館で勤務する枠ですので、市役所の他の課とかに配属されることは基本的にありません。ただ、異動自体は、市内にある8館の図書館のどこかに異動するってことはあります。司書になるのは司書採用の人だけかというところというわけではなくて、一般職の職員で資格を持っている方が、本人の希望で図書館司書として図書館に配属されるということもあります。また、図書館の職員として、司書としてではなくて、事務会計とか、施設管理の担当として、一般職採用の職員が配属されるということもあります。館長とかは割とこのパターンが多いですね。で勤務形態はシフト制です。土日の勤務もあります。ただ、週休完全2日制になっていますし、祝日は完全に振り替えられるので、勤

務日数は他の公務員と変わりません。採用試験の応募資格は、司書資格を持っていることと、4年制の大学を卒業していることというのが条件でした。これは卒業見込みも含まれます。

主な仕事内容ですけれども、これは先ほどお話しされていた方と同じような感じですね。貸出、返却、レファレンス、館内の各種サービスの窓口対応、こちらは当番制です。開館、閉館業務と館内での利用者対応ですとか、書架整理・返却資料の排架、書庫とか閉架の配置換えみたいな資料管理ですとか、選書資料の選書とか、資料の除籍とか。こちらは分類ごとに担当が違いまして、私の分類はヤングアダルトとNDCの8類と9類と参考図書になっていました。あとは講座とかお話し会のようなイベントの企画とか運営ですとか、企画展示の設置。こちらは、児童展示と一般企画展示、ヤングアダルト展示っていうのがありまして、2カ月ごとに変更します。これも当番制でして、私はヤングアダルトの担当ですので、2カ月ごとに本を選んで展示を変えていました。あと予約資料の市内の他館への配送ですとか、他館からの受け取り資料の処理ですとか。先ほど申し上げましたとおり、他の図書館から本が返されることも、逆に自分の図書館の本が他の図書館に返されることもありますので、ほぼ毎日、配送でやりとりをし合っております。なので、別の図書館から来るときは返却作業をしなければいけませんし、他の図書館に送るときはその準備をしないといけないというのを、毎日どちらかをやっているという形ですね。

あと職場体験とか、インターンシップの受け入れとか、学校への団体貸出資料の準備ですとか、こちらは私もインターンシップの担当になったことがありますけれども、こういったことの指導ですとか、団体貸し出しするときの資料の準備ですとかも職員がやっております。

これに加えて、各職員の担当業務を行っております。私は雑誌関係の担当なので、雑誌の支払いの決裁を取ったり、あと図書館だよりや市の広報に載せる図書館のイベント情報とかの広報を作成したりですね。こういった業務もやっております。学校図書館は学校図書館で大変忙しかったのですが、公共図書館も、ここ中央館なのでかなり人が来ますので、だいぶ忙しいです。毎日わたわたしながら、仕事をしているような形になっています。

仕事の特徴といたしましては、職員全体と協力して業務に当たるために、チームワークが必要です。職員間のコミュニケーションも重要になってきます。図書館職員として専門的な知識を持つ職員が多いですので、問題意識や、図書館に関する情報の共有はしやすいかなと思います。あと、学校図書館と違うのは、市職員としての研修とか、図書館司書としての研修とか、そういった研修がかなり豊富で行きやすいですね。予算も取ってくれたりしています。そういったことで、職場の教育というのでもかなり豊富にやっています。あと、他の図書館の職員ですとか、講演などのイベントで呼んだ方とか、外部のかたがたと接する機会もかなり多いです。電話対応もたくさんありまして、ひっきりなしにかかる日はずっとかかってくるっていう

ような状況にもなります。利用者サービスに関しましては、接客業としての一面もありまして、困った利用者さん、例えば、カウンターでどなりつけてくる利用者さんですとか、盗撮とか盗難とか、そういったことをやらかす利用者さんですとか、そういったかたがたの対応もしなければならぬっていうところがあります。もちろん、普通に善良な利用者さんもいらっしゃいますので、そういったかたにも、ちゃんと対応するのですが、そういう困難さもあるかと思えます。

共通点といたしましては、教育機関としての理念を持ったサービス提供というのが最重要かと思えます。学校図書館であっても、公共図書館であっても、教育機関っていうのを忘れてしまうと、何をやっているんだか分からないことになりますので、そこは重要かなと思えます。あと、業務外での自主的な学習とか情報収集は必須かなと思えます。これは教員であっても、学校司書であっても、公共図書館の司書であっても同じですけども、自分で学ぶ姿勢っていうのは問われる仕事かなと思えます。蔵書は、どちらかというところと一般向けですね。利用者ニーズを重視した運営というのが中心かなと思えます。違う点としましては、学校図書館は単独で行いますけれども、公共図書館はチームワークが重要ですね。図書館サービスの目的が、学校図書館は学校教育の補助っていうのが中心でしたが、公共図書館は、市民全体への社会教育ですとか、生涯学習の支援というのが重要です。他に学校図書館は自由度が高いですけども、相談できる相手は少なかったですね。それに対して公共図書館は、組織的に動くので、相談できる相手はたくさんいるのですが、どうしても学校図書館よりは制約が多くて、何かをするんだったら決裁を取らないといけないというような縛りはあります。

では『正規の図書館司書になるには?』と題しまして、私がいろいろと、採用試験などを受けてきた経験をお話ししたいと思います。まず、なり方としましては、大きく分けて三つかなと思えます。まずは私のように各自治体とか国の公務員試験を、専門職、司書枠で受けまして、それで合格して採用されるということですね。国立国会図書館とか、国立大学法人とか、東北だと福島県とか、東京都みたいな司書枠がある自治体を受けるっていう形。あとは、指定管理制度がある図書館の運営を行っている企業に、司書職で就職するっていう形。あとは、もう一つは、各自治体の地方公務員試験を一般職で受けて採用されて、異動の希望に図書館で出し続けて配属されるのを待つっていう形もありますが、これはかなり運に左右される形にはなりません。こちらは直営の図書館がある自治体が基本ですね。他には、直接、専門図書館とか大学図書館とかで採用されるっていうこともあります。それはどちらかというところ、非正規の職員が多いのかな、というような印象はあります。

私は自治体職員なので、自治体職員として語らせてもらいますが、司書枠がある自治体でも、毎年、募集しているとは限りません。足りなくなったら募集っていう自治体が多いですの

で、採用情報は細かくチェックしていたほうがいいのかなと思います。お薦めのサイトはこちらに書いたとおり、公務員の採用試験情報サイトを見ておけばいいかなと思います。司書で絞り込みもできますので、公務inとか、こむいんとか、この辺を見て私は採用試験を受けていました。採用試験の内容ですが、自治体によって異なりますけれども、大きくは3パターンかなと思います。一般教養と図書館専門科目と面接というパターンと、一般教養と行政専門科目と面接というパターン。あと、SPIなどの1次試験と面接というパターンの三つですね。これは自治体の採用試験についてですけれども、一関市は3のパターンでした。それで、1は図書館の専門科目を受けるのですけれども、2の行政専門科目ってというのは、いわゆる事務方の一般職採用の職員と同じ試験ということです。なので、対策するとしたら、一般教養と同じように、公務員試験の問題集などで対策するのがよいかと思われますし、図書館専門科目は『司書もん』みたいな専用テキストで対策するのがよろしいかなと思われます。あと、社会人経験枠で試験が一部免除ということもあります。

面接と履歴書についてですけれども、司書として採用されたら何をしたいかというようなことは、よく面接で聞かれます。これは普通の就活でも同じだと思いますけれども。なので、理想の図書館像ですとか、司書像などのビジョンについては、持っておくことは、私は重要なと思っております。あと、図書館実習などの図書館の業務に関わるような経験は、あったほうがいいと思います。正規採用の経験者を求める傾向に最近ありますので、アルバイトとかでも話すねたにはなるのかなという形です。あと、教員免許みたいな他の資格でも、うまく利用すれば、アピールポイントにはなります。特に教育系は、図書館が教育機関であるということも関係して、利用しやすいかなと思います。ただ、教員免許は、何で教師にならなかったのかということを知りたがるので、その問いの答えについては考えておく必要があるかなと思います。

あと、ここは重要かと思いますが、本が好きっていうよりも、人が好きっていうことのほうが圧倒的に大事です。自治体職員ってというのは公務員ですので、その自治体と市民に対する奉仕の姿勢が問われるわけです。図書館司書である前に自治体の職員であるっていうようなことはあります。なので、市民に不満、不信を抱かれないような行動も必要ですし、守秘義務とか、そういったところも、公務員として守っていかなければいけないので、本が好きっていうことよりも、人が好きっていうことの方が、職員面接では割と重要視されるかなというところですね。あと、司書の採用は少ないですので、縁もゆかりもない自治体を受けることにもなるかなと思います。なので、その自治体とか図書館については、よく調べておく必要があるかなと思います。私も一関には別に住んだこともありませんでしたし、親戚もいなかったしっていうようなところで、あんまり縁はなかったんですが、採用されて初めて移住しました。

では『さいごに』と題しまして、図書館というのは、教育施設としての役割を持ちます。そ

れについては皆さんもご存じかと思うのですが、ただ実際の利用者さんの多くは、本を読む場所、借りる場所、もしくは勉強する場所としか認識していないことが多いです。そのため、図書館職員の側から市民の生涯学習への働き掛けは、今後、必要になってくるかなと思っております。現代は、インターネットで簡単に情報にアクセスできる時代ですので、図書館の存在意義自体に疑問を持たれるってということも、少なからずあるのかなというところは感じております。公共図書館を軽視するような自治体もありますし、学校図書館っていうと、さらに状況が悪いということもだいぶあります。そんな中で、図書館が求められるものであり続けるためには、社会教育っていう意義をより重視する必要があると、私は思っております。カウンターでの、貸出、返却っていうのは、自動貸出機とかで対応可能ですし、AIも発達すれば、簡単なレファレンスぐらいはするようになるかもしれませんけれども、ただ図書館っていうのは、新しい学びとか興味の入り口になる場所として、機械では代替できない役割を持っていると、私は考えております。

図書館員という職業、図書館という職場は未来があるものだと私は信じております。なので、これからの新しい図書館を、共につくり上げていきませんか。ということで、私のお話は終わりにさせていただきますと思います。ご清聴ありがとうございました。

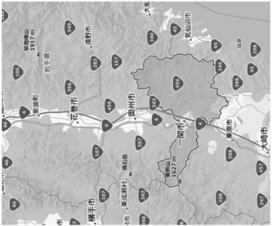
公共図書館司書の キャリア形成 ～社会教育施設としての図書館～

岩手県一関市立一関図書館
司書 熊谷 遥

1

自己紹介

- ・H12年生まれ
- ・小学校は福島県、高校大学は岩手県
- ・宮城県には中学校の時に住んでいた。
- ・場所は多賀城市
- ・現在は岩手県の一関市で勤務



岩手県一関市

2

経歴

- ・R5.3 盛岡大学卒業
(中学校・高校教諭一種免許・司書教諭・司書資格を取得)
- ・R5.4～R6.3 岩手県盛岡市立高等学校(母校)に常勤講師の立場で学校司書兼国語教員として勤める
- ・R6.4～現在 岩手県一関市職員の専門職、司書として採用
一関市立一関図書館に配属になる

大学卒業からまだ約2年、キャリアとしても道半ばです！

3


目次

1. 高等学校司書・教員時代
2. 公共図書館司書になってから
3. 正規の図書館司書になるには？
4. さいごに

4

1. 高等学校司書・教員時代

盛岡市立高等学校図書館司書として



5

高等学校司書・教員時代

司書の身分

- ・常勤講師(フルタイムの臨時採用教員)として盛岡市立の高等学校に勤務
- ・基本的に他の教員と同じ勤務体系。残業代は出ないが、手当てがある。
- ・岩手県教育委員会から声をかけられ、盛岡市の教育委員会に雇われる形
- ・負担は軽くなっているもの、授業や進路指導などを受け持ち、委員会や部活動の指導も行う。軽化した教員の通常業務に司書の業務をプラスした状態
- ・図書館の運営は司書教諭、学校内の図書課の先生方と行う。基本的な図書館業務は司書が行う。
- ・条件は司書教諭の資格を持っていること、高校の教員免許を持っていること

6

高等学校司書・教員時代

主な仕事内容

- ・購入資料の選書、備品購入等事務作業(業者とのやり取り、予算管理も含む)
- ・図書館だよりや新刊案内、図書館報等広報物・利用統計等掲示物の作成
- ・学校図書館の直接サービス(カウンター業務・排架・レファレンス・展示の更新)
- ・書架整理、除籍資料の選定等資料管理
- ・ラベルやバーコードなどの作成、寄贈資料の装備
- ・書誌情報の編集と入力
- ・施設管理(図書館内の清掃・室温湿度管理等)
- ・授業で活用する際の支援・図書委員会の指導

閉館時間17時まで現場監督

+

試験作成や成績評価含む週4コマの国語の授業・クラス担当としての業務

7

高等学校司書・教員時代

新しく始めたこと

- ・書誌データ編集の時短簡略化(Excel関数で自動的に編集されるように)
- ・閉架書庫の整理(大学と連携)
- ・企画展示の工夫(ブライントラックス、おみくじ作成、文学賞やイベントに合わせた展示)
- ・メイカースペースの設置
- ・選定基準の作成
- ・図書館利用案内の作成
- ・文化祭での生徒の作成物展示
- ・委員会の生徒用、自分用の業務日誌を作成
- ・一部資料の配置換え、別置の解体と並べ直し
- ・利用者アンケートの実施

業務量が多いが、ほぼ一人仕事である為自由度は高い

8

高等学校司書・教員時代

仕事の特徴

- ・ 学校図書館の維持管理から利用者(生徒)に対するサービスまで、ほぼ一人で全てをこなす仕事。必然的に職場の誰よりも図書館知識があることが求められる。
- ・ ほとんど一人で仕事をするので学校内でも孤立しがち。
- ・ 周囲の先生方は当然図書館の専門家ではないため、図書館について意識や熱量のズレが大きいい、仕事について理解されないこともある。
- ・ 自分がないと図書館が開けられない。休み場合は細かく指示をして開館してもらおう。休みにくい。
- ・ 周囲との連携が大事だが、先生方も忙しいのであまり協力関係を築けない。事務員との方が話しやすい。
- ・ その場に指導役の先輩などがいないため、図書館職員の経験がない状態からいきなり学校司書になると大変。

9

2. 公共図書館司書になってから

正規職員として一関市立一関図書館の司書になって

10

一関市立一関図書館概要



建物 3階建て 延床面積7,905㎡
蔵書冊数 約39万冊
児童スペース、学習室、飲食可スペース、PC席有
授乳室、子供トイレ有

- ・ 開館時間 平日:10:00~20:00
土日祝:10:00~19:00
- ・ 貸出 冊数制限なし(DVDは5点まで)
貸出期間3週間
- ・ 予約 ネット上で可能 一度に15点まで
コミックとDVDは5点まで
- ・ 利用者カード 一関に在勤在住でなくても作成可
- ・ 電子図書館有(利用は市内在住在勤者限定)
- ・ オンラインデータベース有・Wi-Fi有
- ・ 駐車場無料(他施設と共同)
- ・ 市内他7館と連携、各館資料の予約・返却可
- ・ 移動図書館車有
- ・ (ステーション27、配本12、団体4、8+4コース各月1巡回)

11

公共図書館司書になってから

司書の身分

- ・ 今年度の4月から正規の市職員(専門職)として一関図書館に勤務
- ・ 立場が市職員であるため、一般職として採用された市役所などに勤めている同期の職員と同じように新採用研修などを受ける
- ・ 市役所などの職員と同様の共有システムを利用し、いつでもやり取りができるようになっていく
- ・ 司書採用は図書館司書として図書館で勤務。市役所の他の課に配属されることは基本的にない。市内8館の図書館への異動はある。
- ・ 一般職の職員で有資格者が、本人の希望から図書館司書として図書館に配属されることはある。また、司書としてではなく事務会計や施設管理などの担当として一般職採用の職員が配属されることもある。
- ・ 勤務形態はシフト制。土日勤務もあり。週休完全2日制。祝日振替あり。
- ・ 採用試験の応募資格は、司書資格を持っていないことと大学を卒業していること(見込み含)

12

公共図書館司書になってから

主な仕事内容

- 貸出・返却・レファレンス・館内の各種サービス提供などの窓口対応(当番制)
- 閉館・閉館業務・館内での利用者対応
- 書架整理・返却資料の排架・書庫及び開架の配置換え等資料管理
- 選書・資料の除籍(分類ごとに担当が違ふ、自分はYA、8類、9類、参考図書)
- 講座やお話会などのイベント企画・運営
- 企画展示の設置(児童展示、一般企画展示、YA展示、2か月ごとに変更)
- 予約資料等の市内他館配送、他館からの受取資料の処理
- 職場体験やインターンシップの受け入れ、学校への団体貸出資料の準備 等

+

各職員の担当業務(自分は雑誌関係業務、図書館だより等広報作成)

13

公共図書館司書になってから

仕事の特徴

- 職員全体と協力して業務に当たるため、チームワークが必要。
- 職員間のコミュニケーションは重要。
- 図書館職員として専門的な知識を持つ職員が多い。問題意識や図書館に関する情報の共有がしやすい。
- 市職員としての研修や、図書館司書としての研修など、研修が豊富。
- 他の図書館の職員や、講演などのイベントで呼んだ方など、外部の方々と接する機会が多い。電話対応も多い。
- 利用者サービスに関しては接客業としての一面もある。困った利用者などの対応もしなければならない。

14

学校図書館と公共図書館

<p>共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育機関としての理念を持ったサービス提供が重要業務 • 業務外での自主的な学習や情報収集が必要 • 利用者ニーズを重視した運営、蔵書構成は一般向け 	<p>相違点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校図書館は単独で行う業務が多いが、公共図書館はチームワークが重要 • 図書館サービスの目的が学校教育の補助から市民全体への社会教育、生涯学習の支援かという違い • 学校図書館は自由度が高いが相談できる相手が少ない、公共図書館は組織的に動くため相談できる相手は多いが制約も多い
---	--

15

3. 正規の図書館司書になるには？

16

正規の図書館司書になるには？

- 指定管理者制度で図書館運営を行っている企業に司書職で就職する(図書館流通センター等)
- 各自治体又は国の公務員試験を専門職の司書枠で受け、採用される(国会図書館、国立大学法人、福島県や東京都などの司書枠がある自治体)
- 各自治体の地方公務員試験を一般職で受けて採用され、異動の希望に図書館で出し続け配属されるのを待つ(直営の図書館がある自治体)

17

正規の図書館司書になるには？

採用試験の内容

自治体によって異なるが、大きくは3パターン

- 1 一般教養＋図書館専門科目＋面接orグループディスカッション等
- 2 一般教養＋行政専門科目＋面接orグループディスカッション等
- 3 SPIなどの一次試験＋面接orグループディスカッション等の二次試験

- 社会人経験枠などでは試験の一部が免除される場合もある。
- 図書館専門科目は『司書もん』などで、行政の専門科目や一般教養は公務員試験の問題集などで対策する。一般教養は数的推理、判断推理の得点率が高い。

19

正規の図書館司書になるには？

司書枠がある自治体でも、毎年募集しているとは限らない！
足りなくなったら募集という自治体も多いので、採用情報は細かくチェック。

おすすめのサイト

- 公務員採用試験情報のサイト。司書で絞り込みも可能
- 公務員試験情報こむいん
- 採用試験情報が日程度順にリストで表示されるため便利
- 日本図書館協会採用情報
- 非正規の情報も掲載。ただし載っていない情報も多い

18

正規の図書館司書になるには？

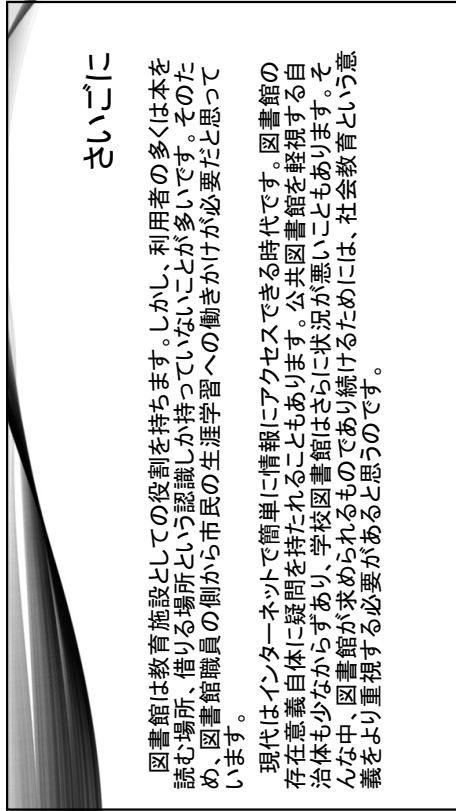
面接・履歴書

- 「司書として採用されたら何をしたいか?」というようなことは面接で聞かれることが多い。理恐の図書館係、司書係などについてビジョンを持つておくことは重要。
- 図書館実習など図書館の業務に関わる経験があったほうが良い。正規採用も経験者を求める傾向があるため、図書館でのアルバイトなどの経験も有効。
- 教員免許などの他の資格も、うまく利用すればアピールポイントになる。特に教育系は、図書館自体が教育機関であることも関係して利用しやすい。
- 「本が好き」よりも「人が好き」のほうが大事。自治体職員は公務員なので、その自治体と市民に対する奉仕の姿勢も問われる。
- 司書の採用は少ないので縁もゆかりもない自治体を受けることにもなる場合がある。その自治体や図書館についてしっかり調べておくことも大切。

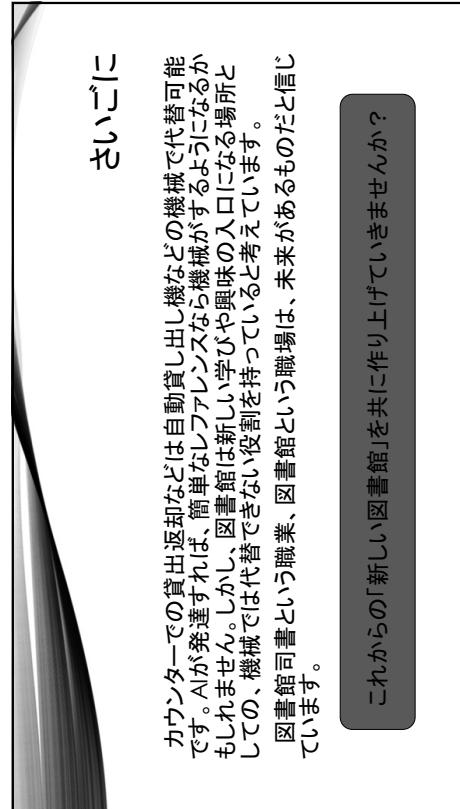
20



21



22



23



24

講演3

大学と公共図書館の両方を経験して

塩竈市民図書館 指定管理者 (株) 図書館流通センター 小島 美鈴 氏

小島 では私から、お話しさせていただきます。指定管理者としては、塩竈市のしおがまみらい共創パートナーズという指定管理者に所属しております。その中でも図書館を担当しておりますのが、株式会社図書館流通センター、TRCとなっております。そこに所属しております私、小島が今回、お話しさせていただきます。よろしく願いいたします。今回の段取りはパワーポイントに示したようにいきたいと思います。私、下の名前が美しい鈴と書きます、美鈴と申します。これは母親が、画家のジャン・フランソワ・ミレイというのが好きでございまして、そこから名前を取ったと聞いております。生まれは栃木、育ちは秋田です。12歳で滝沢村、当時は村という所なんです、ここに引っ越した理由が、自分の父親の実家がそこにございまして、そこで、じいちゃん、ばあちゃんと一緒に暮らせということで、そこに引っ越しをして、そこから滝沢市にある盛岡北高等学校という所に進学。この段階から、既に図書館司書になりたいというのは視野に入れて、となったら進学がしやすい高校、大学に行くべきだということで、実家から自転車で10分ぐらいの所でした、盛岡北高校に通いました。

その後、県内で唯一司書資格が取れるというので、私立大学なんですけども、盛岡大学に進学いたしまして、無事に卒業して、その後、新卒で盛岡市の印刷会社に就職しました。というのも、私、図書館司書がやりたかったのですが、このままずっと図書館関係を追いつけると、視野がすごく狭くなるなと感じたので、わざと一般職に就職しようというのと、大学在学中にいろいろ学友会という生徒会みたいなものをやらせていただきまして、その中で学生さんを対象にした出版物の作成なんかを経験して、印刷に興味を持ってということで、印刷会社に就職いたしました。そこで、より社会人として経験を積めたらいいなと思って、職場近くにアパートを借りて1人暮らしを始めました。その後、1年たったぐらいのときに、いろいろお話しをいただきまして、盛岡大学に空きがあるので戻ってこないかということで、盛岡大学図書館に入職をしまして、そこから3年ぐらい勤め上げました。

3年たって去年の4月にまた転職をしまして、縁もゆかりも何もございませんが、TRCに入社し、宮城県塩竈市にあります、塩竈市民図書館に勤務しております。これは多分、宮城県に引っ越してきた人あるあるだと思うのですけども、私、転入の手続きをするときに、仙台市役所に行ったんですけども、そこで「あなたの場合は区役所に行ってください」と言われて、区役所という存在がそもそも岩手県にはございませんので、非常にびっくりいたしました。あとは、宮城県は車線がすごく多いですね。運転がすごい怖いです。片側5車線とか6車線と

かってもう、これを平気な顔で運転する宮城県民、すごいなと思っております。あとはSuicaを使える場所がいっぱいあって、非常に私は感動しております。宮城県ってすごいんだなと思っています。

では、大学図書館時代のお話をさせてください。私がいた盛岡大学図書館というのが、大学が文学部に英語文化学科、日本文学科、社会文化学科、児童教育学科というものがございまして、司書資格を取れたのが英語文化学科と日本文学科です。なので、私は日本文学科に所属しておりました。あとは、栄養科学科っていうのがありまして、栄養科学部があって、そこに栄養科学科、うちの大学、唯一の理系の学科ですね。プラスで盛岡大学短期大学部というものがありまして、そこは幼児教育学科、保育士の資格が取れるところでありました。盛岡大学は何が有名かっていうと、さんさ踊りっていう、岩手県伝統の踊りがあるんですけども、それがちょっと有名なのと、附属高校の盛岡附属高等学校は野球ですごく有名で、甲子園の常連校だったりしています。最近、附属幼稚園が統合しまして、認定子ども園になりました。私が入職したきっかけが、学生協働っていうものを盛岡大学図書館で復活させてほしいという話ももらいまして、私が卒業したのが2020年の3月なんですけど、その段階で、学生協働が途絶えてしまったということでしたので、経験者である私が職員として戻って学生協働をやってほしいというお話いただきまして、学生協働を担当させていただきました。

あとは館内掲示物諸々だったりとか、イベントの告知だったりとか、そういうものの広報物の制作。これは印刷会社にいたという経験があるので、やってほしいということで担っていました。あとは下っ端の、経験が全然ございませんでしたので、誰でもできる排架だったりとか、もろもろの雑用っていうのを2021年、入職した当時は担当しておりました。そこから退職する2024年ですね。どうなったかといいますと、パワーポイントのように、やることがめちゃくちゃ増えました。大体2024年は、スタッフが6人くらいいたのですが、私は1人で全体の4分の1くらいのお仕事を担当しておりました。業務がちゃんと分担をされていたのですが、その分担の段階で各所に私の名前があるという状態で、すごく信頼をされていてうれしかったんですけども、大変だったのはやっぱりその分、残業が多くなったりっていうものは結構あって、早番で出勤をして遅番で帰るっていうのを毎日しておりました。

私が採用されたのは、司書としての採用ではなくて、あくまで大学の事務職員としての採用でしたので、図書館の業務以外っていうのも結構やったりはしていました。その中でも、公共図書館とかと違うのは、研究費っていうものの扱いがありまして、これは大学の法人のほうと連携をして、先生たちの研究用に充てられている経費で本を買うんですけど、それを図書館の備品とするか否かっていう判断をしたり、実際に研究費で買いましたよっていうものは基本的に先生たちの研究室に置かれるものになっておりまして、先生たちが退職しますとか、もう自

分たちの研究室には要らないですって返ってきた本を備品として受け入れるのか、例えば資料価値が低下しているので除籍をするのか否かっていうものの判断だったりとか、そういうものをやったりしていました。あと経理、図書館のお財布を管理していたのですが、すごくこれが大変で、毎月、決算して、今月はこのくらい予算を使いましたよだったりとか、このくらいお金が残っているので、年度末までに何とかして使い切りましょうだったりだとか、来年度の予算を考えたりだとか、結構、図書館業務以外で悩むことが多かったと思います。

あとは、経験というか知識も全くなかったのですが、情報機器の管理ですね。特に学生さん用のパソコンだったり、自分たちの事務用のパソコンっていうものの性能だったりとか、それらもろもろの購入だったりだとかを任されておりました、全く知識がないので非常に困ったんですけども、おかげで今の業務とかに生かせるぐらいには、少し知識が付いたんじゃないかなというふうに思っております。

あとは、この学生協働の中で一番、私が力を入れたものが、マスコットキャラクターの作成でして、マスコットキャラクターを作ることによって、盛岡大学図書館という文字を見るのではなく、イラストとか、何かから連想して大学図書館を連想できるようにして、よりそれを身近に感じてほしいなというので、マスコットキャラクターを作りました。7年に1度、大学の認証評価というものがあるのですが、その中で唯一、図書館をほめられまして、その中の一つにマスコットキャラクターが含まれていたということで、私は非常にうれしい限りでございます。

大学図書館の利用者層ですね。皆さんも大学図書館を使っている方が多いと思うので、分かると思うのですが、基本的にはそこの学生さんということになります。卒業生もたまに来てくれたりしますし、地域住民の方もたまに来るんですが、99パーセント、学生さんか大学の先生かっていうところになってくると思います。ですので、提供するサービスっていうものも、大学の授業の支援だったりだとか、レポートの課題の、例えば何々先生からこういう課題を出されたんですけどどういう資料がいいと思いますかっていう相談を受けて、一緒に探してみようかだったりだとか、一応、図書館内には印刷用のパソコンを設けていたんですけど、そのプリンターの使い方がわからないというので、レポートとか卒業論文の印刷っていうものを手伝ったりだとか。あとは、レポートを書くに当たって参考文献が欲しいのでという、文献複写の受付が非常に多かったと思います。現物を借りる相互貸借、現物貸借っていうのは、基本的に先生たちからのリクエストが多かったように思います。あとは、私は学生さんの前に立って図書館のガイダンスをしたり、授業の1コマを借りて講座をやったりとかっていうのも、やっていました。

楽しかったことが、若い人が常におりましたので、思考が固まらなく、偏らなかつた。図書

館はこうあるべきだっていうものが、司書課程のときは常にあったんですけど、実際に図書館で働いてみると、利用者さんがこういうのを求めている、特に大学図書館だと相手にするのはまずは学生さんだっていうのもそうなのですが、20歳前後の人間を相手にしているんだっていうのが見えてきまして、そこから新しい企画を考えたり、その20歳前後の人が本当に必要としている資料っていうのは何なんだろうっていうのを考えたりして、それを実行したことっていうのは非常に楽しかったと思います。何より、上司がすごくすてきな方でしたので、私のような若いような人間の話もちゃんと聞いてくれて、それをやってみようよと背中を押してくれるような方でしたので、こういうのは実現したんだと思います。あとは、他大学の図書館さんとの交流や、意見交換ができたのが、非常に自分の大学図書館の運営に生かされたのではないかなと思っております。

また、業者さんとのやりとりです。庶務も担当しておりましたので、事務用品の購入だったりとかも全部、私がやっていたんですけども、そうなったときに、業者さんと、こういう図書館は今、こういうものを納めています、こういうものを使っています、こういうのが人気ですっていう話を聞いて、大学図書館の流行っていうものを知ることができたりっていうのが非常に楽しかったと思います。

大変だったのはやっぱり多様性ですよ。例えば、障害のある学生さんの対応っていうのが非常に難しく、盛岡大学図書館、盛岡大学っていうのが、個人情報保護のために、障害のある学生さんの情報っていうのが公開されなかったんですね。なので、図書館に来て、例えば急に倒れたり、発作が起きたりして初めて、この人にはこういう特性があるっていうのを認識することがありまして、非常にその対応が難しかったです。担当部署の人に情報の共有をしてくださいだとか、例えば対応の仕方っていうものを教えてくださいっていうふうに要望したのですが、それも個人情報だから難しいというふうに断られてしましまして、そこから結構、自分の図書館の資料だったりだとか、他の大学図書館さんだったりとかの事例を聞きながら、多様性にどう対応していくかっていうのを考えたのですが、これはなかなか、これが正解っていうものはないので、非常に難しかったです。

あとは、他部署とのギャップですね。やっぱりさっき熊谷さんなんかも言っていたりはしましたけども、図書館にいる人間と、図書館にいない人間では、温度差が非常にあります。だから、図書館がこういうことをしたい、ああいうことをしたいっていうので、新規事業とかを申請っていうのもなかなか許可が下りなかったりとか、良さを理解してもらえなかったりっていうのがあったので、そういうことからすると、すごく新しいことっていうのはやりづらかったと思います。あとは、さっきも言ったんですけど、あくまで私、大学図書館の職員ではなく大学の事務職員だったので、入試業務っていうものには参加をしなければいけませんでした。

AO入試もそう、推薦入試もそう、一般入試もそうですけれども、何より共通テスト、非常にこれが、毎日、胃が痛い感じですね、これは今、ここにいらっしゃる大学教授の方とかは分かるかと思いますが、大学は先生がたプラス事務職員で共通テストの運営っていうものをしたりするのですが、その役割に入ってしまうと結構、責任が重大なので、これが大学図書館には所属しつつも、全く関係ないことだったので、非常に大変だったなと思います。

私が大学図書館を辞めるとき、最後の大事な仕事が書架増設でした。うちの大学図書館に本棚を増やしますということで、休館を結構して、図書館の棚を増やした後に、今度はそこに新しく今ある本たちを入れ替えるという作業。今、聞いてくれている学生さんの中にも、手伝ってくれた母校の学生さんがいらっしゃいますけども、これの指導をしていました。これは結構、楽しかったんですけども、やっぱりやったことがないと、なかなか他の図書館の事例とかも集めることができななかったので、毎日、手探りでやっていたので、結構大変でした。

あと、これはうちの図書館に来たというわけではないのですが、大学全体に爆発物を仕掛けましたというメールが来たりとかして、そうなった場合は館内の巡回も結構、頻繁にやったりだとか、図書館の外も見たりだとか、巡回を強化するっていうので、本当にあるなと思ってはなかったんですけど、万が一があったので、非常にこれは怖かったですね。あとは、アポなしの一般利用。これ、何が怖かったかという、ここにあるから来たんだっていう一般の方が結構いらっしゃったのですが、よく調べてみると、うちの図書館にはそれはいいですねとか、けど、ここにあるって書いてあるんだって。それは、うちの図書館じゃないですねっていう押し問答とか、それはもう、ない物をご提供ができないので、一言、やはり大学図書館に来るときは、事前にご連絡いただければ、こちらでお調べしますっていう対応をしていたんですけども、これで結構お怒りになられたりで、対応をするのが大変でした。

あと、盛岡大学のあるあるを申し上げますとですね、まずクマです。盛岡大学生の方は分かると思うんですけど、非常に自然豊かな所に土地がございまして、クマさんがよく出ます。大学図書館は一番、校舎の外側に位置しておりますので、クマさんが出ましたってなると、一番危ないのは図書館だったりします。なので、さすまたを常に背後に感じながらという、クマが来たらどうするかとか、海外から本格的なクマよけスプレーを買おうかなとか考えました。一回、クマが図書館の近くで目撃されたっていうのがあって、朝から開けるのが怖かったなっていうのがございます。あとはヘビさんも図書館の中に出ました。お盆明けの開館準備中によろって動いたのがいたので、見たら毒ヘビでした。すごい怖かったですね、これは。あと、コウモリさんですね。これは朝、出勤したら入り口に段ボールがあって、なんだ、これって開けたら、コウモリさんがびくびくびくってしてしまっていて、ちょうど去年の冬が暖冬だったっていうのがあって、コウモリさん、間違っ起きてきちゃったんですね。後で、裏庭に放

しました。自然豊かな所だったので、こういう対応もして、これは大変だったなというふうに思います。

大学図書館に勤務してよかったなということを述べます。事務職員としての勤務でしたので、メールのやりとり、これが非常に私は自分の今に生きていると思っております。先生たちとのやりとりもそうですし、業者さんとのやりとり、全てメールでやっておりましたので、社会人としてのメールの書き方を学べたなっていうのが強かったと思います。これを一番上に挙げた理由が、今、塩竈市民図書館に勤めていますけども、メールの書き方が分からないというスタッフが数多くいまして、今回、講演会のお話をいただいたときにも、外部とのやりとりという流れになるわけですけども、そういうことが他の人にあった場合、メールの書き方が分からないっていうふうに後輩のほうから言われまして、これはそういうメールの書き方、メールを書くようなお仕事っていうのを経験してよかったんじゃないかなと。これは、別に図書館じゃなくても、他の事務職とか、どんなお仕事に転職しても生きてくることなので、よかったんじゃないかなと思います。あとは、少しパソコンに強くなったということですね。この後、述べますけれども、今の図書館でも情報機器の担当をしております。それによって、少しだけ他のスタッフよりも強い知識があるというだけなんですけども、少し口を出ささせていただいて、より性能のいいパソコンとか、業務に効率がいいパソコンについてっていうのを、会話に入ることができて、すごくこれは知識を得ることができてよかったのかなと思います。

あとはさっき言いましたように、お財布の管理をしていたので、お金の流れっていうのが学べました。毎月、これくらいの選書をしていたらこれくらいの資料費が出ていくんだだったりだとか、事務用品もこのくらいお金がかかるんだとか、そういうもの、もちろん大学図書館と公共図書館とか、他の図書館と違っていうと、予算の規模とかも違うと思うんですけども、こういうふうにお金っていうのが流れるんだっていうものを体験することができたのは、非常によかったんじゃないかなと思います。その他、自分の得意なこと、できることっていうのを仕事に生かすことができたので、非常にここは勤めてよかったなと。天職に近かったのではないかなというふうに思います。けど、これは私だけの要素ではなくて、一緒に勤めていた人たちとの相性だとか、そういうもののいろいろな要因が重なって、私が勤めていた3年間はなかなか非常にいい環境だったのではないかなというふうに思います。

公共図書館のお話をしたいと思います。塩竈市民図書館なんですけども、これはこの前、2週間前の金曜日だけに、『OH!バンドス』っていう番組に私、出させていただきまして、26日曜日に、塩竈市民図書館で講演会があるので、その宣伝をさせていただいたときに、テレビ局のスタッフの方に「塩竈市って図書館、あるんですね」って言われたんですよ。そりゃあ、あるでしょう。けど要は、図書館の業界と全然遠い方っていうのは、つまり各自治体に図

書館があるっていう、そういうことすら知らないんですね。私、びっくりしました。塩竈市にもちゃんとあります。皆さん、どのくらい言ったら分かるかな。仙石線の本塩釜駅から徒歩5分の所に壱番館という建物がございます、市役所の庁舎が入っているんですが、その3階と4階が図書館です。3階がいわゆる一般書のフロア、4階がヤングアダルトとか児童書とか、絵本とか、そういうもののフロアになっています。塩竈の竈、私これ、転職前にめちゃくちゃ書く練習したんですけども、すごい難しいんですよ。カメさんみたいな感じですけど、カメさんじゃないみたいな。これ、脅されました。元会計年度任用職員で働いていた今のスタッフさんに、この竈を間違えると住民から反感を買うと言われて、めちゃくちゃ練習しました。皆さま、書くときは気を付けてください。

4月に任されたものなんですけども、相互貸借っていう業務。私は大学図書館ではやってこなかったんですけども、これは図書館業務経験者がいいということで、私が割り当てられました。その他にホームページで、今、一般書フロアのお知らせの更新を担当しております。これは前職で、ホームページの管理を担当していたと言ったら、やってくれと言われたのでやっています。あとは、塩竈市民図書館っていうのが、棚担当っていうものがある図書館でして、私はNDCの5類と6類を担当しておりました。うわさには聞いていたんですけども、棚担当がある図書館なんだと。頑張んなきゃな、何も分からないなと思って、やってきていたんですが、5月になった途端にスタッフさんが1人辞めてしまいまして、担当する棚が一気に増えました。

そのスタッフさんの分で引き継いだのが、0類と1類ですね。これは、パソコンの担当になったが故に、0類と1類やってくれと言われて、それは分かりました、やりますって言ったんですけども、後から聞いたら、地域資料と参考図書がくっついてきちゃってありましてですね、私、4月から宮城にいる人間なので、地域資料を任せられても非常に困ったわけですね。塩竈を知るという観点からすると、私もいい機会だなと思っているんですけども、塩竈のことがよく分からない人間が地域資料を担当するというので、それが非常に不安でございました。参考図書もなかなか入れ替えがされていないので、これは非常に今、難航しております。すごく、これは資料の入れ替えが大変です。棚担当も一人で6つ担当しておりますので、これは結構、難しく、棚担当が何をするかといいますと、選書だったりとか除籍だったりとか、棚の管理だったりとか全てをやるんですけども、私1人だけ6つ担当していますので、人の6倍、選書をして除籍をして、棚の整理をしなきゃいけないというのが、非常に大変だと思っています。結構、大変です。

利用者層ですが、公共図書館なので大人から子どもまでっていうふうになっています。老若男女ってやつですね。それに伴って対応っていうのも変わってくると思うんですけども、基本的には、この本どこにありますか、この本は塩竈市民図書館にありますかっていう質問が、99

パーセントです。あります、ないですっていうことを言うんですけども、ぜひこれは後ろにある検索機で調べてみませんかという案内を、私はしています。けど、塩竈市民図書館のスタッフの方は、それをしないで、直で棚に行って取ってきちゃう。「なんでそんなこと、するんですか。社会教育施設だから、そういうのも自分でできるように、利用者さんが自分で新しい本に出会うきっかけっていうのをあげたほうがいいと思うんです」って言ったら、私は一般書フロアの担当だったっていうのもあるんですけども、利用者のほとんどがおじいちゃん、おばあちゃんなので、インターネット機器の使い方が分からないっていうのと、利用者さんからすると、自分なりに調べてきて、それが限界で来ている方もいるかもしれないので、そういうのを考えると、スタッフたちで取ってきちゃうっていうふうに教えてもらいまして、なるほどそういう考えもあるのかっていう学びになりました。

あとは、相互貸借の依頼が多いですね。現物貸借ですね。特に小説関係の依頼が多くて、これは実は、公共図書館の相互貸借には、優先順位があるんですよ。自分の図書館がある県内のほかの図書館に所蔵があるかっていうのをまず調べて、なかったら自分が所属する地域（北海道・東北エリア）にあるかっていうのを調べて、それでもなかったら県外（関東等ほかエリア）を調べて、っていう手順を踏むんです。これがまた結構大変で、1冊1冊決められた手順で都道府県をローラーしていくので、1冊につき1時間、2時間かかるのもまれではないので、結構、時間を取られて大変だかっていうふうに思います。塩竈市民図書館は、貸すよりも借りることが多い図書館なので、本の所蔵のチェックっていうのが、すごく負担になっています。けど、こういう本もあるんだな。なんでこれ、うちの図書館にないんだろうなっていう考えを改める機会にもなって、非常に楽しいとは思っています。

あとは、イベントの受付ですね。先ほども言ったんですけど、1月26日に塩竈市民図書館は講演会をします。宮城県にゆかりのある、くさかみなこさんという絵本作家さんの講演会をやるんですけども、大学図書館時代もなかったわけではないんですけども、本に関わるイベントってなったときに、図書館ってこういう大きな講演会もするんだなと思って、初めてそういうものに携わると、非常にうれしいなと思っております。ちなみに、まだ定員は埋まっておりませんので、よければ、皆さん、参加してみてください。

楽しいことです。公共図書館に来て、いろんな利用者さんと会えたっていうのは、非常にこれが楽しいですね。私が転職した理由の一つでもあるんですけども、いろんな人と触れてみたい、触れ合ってみてほしいっていうのがカウンターで実現して、たまにお話をしてくださる方もいて、そういう方から地域の話の聞いたりすると、いいな、楽しいなっていうふうに思います。そういう人経由で、例えば、こんな本がある、あんな本があるっていう話を聞くと、大学図書館のときは基本的に学術書にしか触れなかったもので、こういう本もあるんだな、利用者さ

んはこういうことに興味あるんだなっていうふうに思いまして、これも私は楽しいなと思っています。その利用者さん経由で、例えば、今、テレビで、こういう温泉街のお話やっていたから、こういう所に行きたいのよね、ここはああで、こうでってお話を聞かされて、勝手に知識がどんどんたまってって、面白いですね。その温泉街について調べてみますか、みたいな感じで会話も広がって、非常に楽しいです。

大変なこととしては、これも多様性です。大学図書館とちょっと違うのはですね、公共図書館ってというのは、いろんな方の受け皿、居場所になっているってことです。なので、図書館を利用したい人だけが集まるわけではなくて、本当にいろんな人が来ます。その、いろんなことに対応するっていうのが、すごく大変です。思ったよりも大変です。私、割とあんまりメンタル食らわないかなと思っている人間なんですけども、それでも結構、引きずったりとかして、思ったよりも公共図書館の人の対応って大変なんだなって思ったりします。あとは、私は一般書フロアの担当なので、ご老人の対応が多いです。なので歯がなくて、何を言っているか分からない方がいたりとかして「ゆっくり言ってもらえますか」って言うんですけど、それでも、ふわふわふわって言われちゃって、分からないなっていうこともあって、そうなる筆談なんかもやったりするんですけど、今度、書いてもらおうと達筆過ぎて読めない。どうしましょう、これどうしましょうっていう感じで、時間をかけてどんどん、不快にさせないようにするのがすごく大変なんです。

あとは、さっき熊谷さん、ちょっと言っていましたけど、怒りっぽい方も来ます。ちょっとしたこと、私たちからしたら、本当にそんなことで？って思うんですけど、その利用者さんからしたら、お怒りポイントなんですね。それも真摯に受け止めて、ご意見ありがとうございますっていうふうにして、逆なでをしないようにしたり、ちょっとでも言葉遣いを間違えると、どんどん悪化してしまうので。

あとは、耳が遠い方。補聴器なんかを着けてらっしゃる方もいらっしゃるんですけども、やっぱ図書館という性質上、大きな声が出せない空間となってくると、大変ですね。筆談なんかを試みるんですけども、先ほど言ったとおり達筆過ぎて読めないとか、逆にこっちの字が今度、文字がちっちゃくて読めない。メモ帳なんか書くと、メモ帳のサイズがちっちゃいので、メモ帳いっぱい一文字くらい書かないと読めないです、みたいな方もいらっしゃるって、これ結構、やりとり大変ですね。ぜひ、他のなんかいいツールがあれば、ぜひ教えてください。けど、その対応も結構、楽しくなってきました。

働き方ってすごいたくさんあると思います。さっき熊谷さんのように、公務員として働いていうのもありますし、私が勤めたように大学図書館の職員としてっていうのもあると思います。あとは、会計年度任用職員。これは大学も公共図書館もどちらにもあると思うんですけど

も、それで働くっていうのもありだと思いますし、最初に菊池さんが勤めたようにだったりとか、今の私のように、民間事業者とかっていうのに所属して働く。いっぱい働き方はあると思うんです。

働き方はあると思うんですけど、ここから私個人のお話とさせていただきます。図書館で働きたいっていうのは、すごくいいと思うんですけど、本が好きだからといって、図書館で働かないのかなって私は思います。先ほど、菊池さんは言っていたんですけども、図書館で働く人のお給料って、そんなに良くないんですよ。いまだに時給制だったりする所もありますし、私は月給でもらえていますけども、10万円台っていうと10万円から19万円の間を指すと思うんですけど、私のお給料は10万円台の前半だと思ってください。そこから、いろんな生活費、1人暮らしだったりすれば家賃だったり払ったりもしますし、保険料を払ったりだとか、食費払ったりだとか、車を持っている人は維持費だったりとか、そういうのをもろもろ払うと思うんですけども、今のご時世で、それで、1人暮らしで生活するのって、すごく厳しいと思っています。

現に塩竈市民図書館で1人暮らしをしているのは、県外から来た館長と、館長補佐と、私だけです。他の人はみんな実家暮らしです。それだけ結構、1人暮らししたくてもできないっていう状態になっていると思いますし、今、新卒で働いている女の子は、アイドルとかそういうのが好きなのでライブに行ったりしているんですけど、お母さんに借金をしてる。自分のお給料だけだとやりくりができない。もちろん、限度はあると思うんですけども、ライブのチケットを買って、ちょっとだけグッズを買ってとか、それだけでも、余裕がなくなっちゃうんですね。そういうのを考えたときに、本が好きだから図書館司書を目指すって、安直過ぎやしないかなと私は思っています。本が好きだったら、別に仕事が終わった後に本読むだけでもいいと思いますし、お仕事が休みのときに、図書館に来るだけでもいいと思いますし、何なら図書館って、図書館の中から盛り上げるのは結構厳しいので、外部の協力も必要だと思うんですね。

ということで、他の企業に勤めて、例えば図書館さん、こんなイベントやってみませんか、みたいな感じで声を掛けてくれるような、そういう外からの協力者っていうポジションも、私はありなんじゃないかなと思っていますし、安直に図書館が好きだから、図書館職員になろうとは、私は思ってほしくないなっていうふうに思っています。お二人の講演も聞いて思ったと思うんですけど、結構、大変なこともいっぱいあるんですよ。やりがいただけだと、ずっと続けられる人って多分、少ないと思っていて、今のご時世を考えたりだとか、まだ皆さんのように勤めてない方、これから新卒で勤めますっていう方もいらっしゃると思うので、ぜひそこはもうちょっと立ち止まって考えてほしいなっていうふうに私は思います。

その他、私が個人的に図書館勤務に必要なだと思うものです。コミュニケーション能力。これは100パーセント、必要だと思います。図書館業務って、どうやっても利用者さんとのやりとりが主なので、コミュニケーション能力ないと厳しいです。盛岡大学の図書館で勤めていたときに学生さんに言われたのが、人と話すのが苦手だから、本と関われる図書館で仕事したいんですっていう人がいて、いや、今、私がこうやりとりしているのは何の仕事だと思う？人とやりとりしているよねっていうやりとりをしたことがあります。本を相手にしているんじゃなくて、人を相手にする仕事なので、コミュニケーション能力っていうのは確実に必要になってくると思います。コミュニケーション能力って何ですかって言われると、私も、人と話すのが得意なほうではないんですけども、話す能力じゃなくて、聞く能力だと思います。聞き上手になるっていうと、多分、いいんじゃないかなっていうふうに思います。そこは自分的に、個人的に、自分の周りでコミュニケーション能力、高いなっていう人がいたら、それを参考にするといいと思います。

体力も必要だと思います。今、塩竈市民図書館は毎週月曜日がお休みだったりするんですけども、その他にシフトでお休みが1日あるような状態です。なので、運が良ければ2連休ですね。日月休みだとか、月曜日、火曜日休むっていうことはあると思うんですけど、基本的には月曜日に休んだ後に、例えば1日出て、また休んで、行って出てって、みたいな感じもありますし、月曜日お休みして、出て、出て、出て、出て、出て、お休みっていうこともありますし、とにかくお休みが不定期です。その不定期のお休みの中で、どう体力を回復するかっていうのだったりだとか、私みたいに1人暮らしをしようって考えている人、要は地元を離れたりとか、本当に図書館司書やりたいから場所を問わずにやりたいっていう方は、1人暮らししなきゃいけないと思うんですけど、そうなったときに、買い出しだったりだとか、家事だったりだとか、あとはお友達と遊びたいだとか、そういうのを考えたときに、その少ないお休みの中で、どう体力を回復するかっていうのが必要になってくるかだと思います。なので、基礎体力っていうのがあったほうがいいと思います。

今、新卒で働いている女の子は、勤務4連勤ただけでふらふらです。ほおとしていたりとかして、利用者さんに「眠いの？」って言われたりしています。「大丈夫です」って言ったりしているんですけど、ぼわぼわしちゃっている部分があって、これ、体力が足りてないんですね。体力ってすごい必要だと思います。あとは、今、塩竈市民図書館、蔵書点検期間中なので、そうやって本の移動だとか、そういうもろもろで体力は必要になってきます。あとは、清潔感、必要だと思います。清潔感といっても身なりをきれいにするだけではなくて、何が言いたいかという、人に好かれる見た目になるっていうことだと思います。印象がいいってなったときに、私、結構、大学図書館とかで前髪を作ったりしたんですけど、目元が隠れると、特

に私なんかは目元が圧力強いって言われて、前髪があるともっとそれが強調されるっていうので、前髪なくして分けて、おでこを出して目元をすっきり、眼鏡も、私は眼鏡がすごい似合わない人間なんですけど、眼鏡屋さんに行って、私の目元を一番柔らかくしてくれる眼鏡を選んでもらって、そういう努力が必要になってくるんじゃないかなと思います。接客業なので、利用者さんが相談しやすい、話しかけやすい雰囲気ってすごい大事だと思っています。

自発的に動くこと。先輩を頼るってすごい大事だと思っています。分からないときは先輩に聞く。これ、すごい大事だと思うんですけど、ずっとこれだと結局、先輩たちのお荷物になりかねないっていうのと、社会人なので、自分で考えて動けるようになることが大事なんじゃないかなというふうに思います。なので、先生たちだとか、先輩から、こうしてみない？ ああしてみない？って言われて、はい、やりますっていうイエスマンがいいと思うんですけども、それにプラスで、ちゃんと自分の考えが付くようになると、いいんじゃないかなというふうに思います。

柔軟な思考も必要だと思います。図書館業務で、どうしても司書だから、こうあるべきだ、図書館はこうあるべきだっていう考えがあると思うんですけど、相手にしている方々は、図書館に関する知識が一切ない方々がほとんどですので、そんな理屈を言ったって通じないわけですね。なので、柔軟な思考で、そこは丸く収めるっていう、こちらが折れるっていうのが大事になってくるんじゃないかなというふうに思います。あとは、レファレンスのヒアリングの能力にも、こういうのが影響してくるんじゃないかなというふうに、私は思っています。

経験してよかったことです。運動部、経験したので、割と体力も付きましたし、メンタルも鍛えることができました。あと私、写真部だったんですけども、ポートレート写真っていうのを撮るっていうのが必要になってくるとき、ポートレートって人の写真を撮るんですけども、てなると被写体が必要なんです。被写体はどう用意するか。道行く人に声を掛けるんですけど、恥ずかしがっていると、いつまでたっても被写体が見つからないので、人に話し掛けているうちに、初対面の人と話すっていうのには、そこまでハードルは感じなくなりました。これは結構、よかったんじゃないかなと思います。


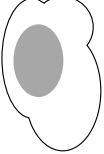
あと、国際交流部。私が4月に塩竈市民図書館に入職して、最初の大仕事が、日本語が話せない外国籍の方のレファレンスの対応でして、英語が全くしゃべれないのに、私が対応しなきゃいけないかったっていうのと、地域資料だったんですけど、私が対応しなきゃいけないかったっていうので、とにかくいわゆるパッション英語というので対応させてもらったところ、大満足して帰られたということがあって、これ、国際交流部やっていてよかったなって勝手に思っています。

あと、アルバイト編です。飲食店はすごく学ぶことが多いと思います。特にホールなんかは、


お客さんとのやりとりを積極的にやる仕事になるので、飲食店、もしアルバイトできるんだっ
たら、やったほうがいいんじゃないかなって私は思っています。あとは、レジの業務は、その
ままカウンター業務に行かせること多いと思うので、あとはバーコード式の管理をしている図
書館だったら、バーコード読むっていうのも必要になってくるので、スーパーのレジなんかは、
ぴっぴっぴって読んだりしますし、これ結構、マルチタスクっていうのもあって、私はいいん
じゃないかなって思います。あと私、内職系の仕事をしていたことがあるんですけど、これっ
て仕事、すごい集中してできるんですけど、没頭しちゃうと周りが見えなくなるので、例えば
休憩時間に入っているのも気付かないとか、他の人が話しかけてるのも全然、気付かないっ
ていうのもあったりして、没頭するのはいいんですけども、ちゃんと周りに意識を配るっていう。
これは他の図書館業務にも生かしていると思っているので、これもやってよかったなっていう
ふうに思っております。すいません、拙い説明なんですけども、これが私が言いたかったこと
となります。ご清聴ありがとうございました。

**大学と公共図書館の
両方を経験して**


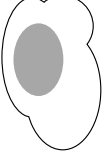
株式会社図書館流通センター
塩竈市民図書館 小島美鈴

1



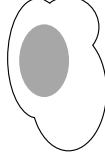


- ① 自己紹介
- ② 大学図書館
- ③ 公共図書館
- ④ その他

2

自己紹介



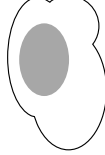




3


こじま みれい

- ① 栃木県宇都宮市生まれ
- ② 2歳ごろ秋田県秋田市へ
- ③ 12歳で岩手県岩手郡滝沢村（現 滝沢市）へ
- ④ 滝沢市の公立高校へ進学
- ⑤ 滝沢市の私立大学へ進学
- ⑥ 盛岡市の印刷会社にて就職、職場近くで一人暮らし開始
- ⑦ 出身大学へ舞い戻り入職
- ⑧ 4月からTRCに入社、塩竈市民図書館に勤務

TRC = 株式会社図書館流通センター






4



大学図書館

2021年5月～2024年3月



5


担当したもの

2021年

- 学生協働
- 広報物制作
- 排架、雑用

2024年

- 学生協働
- 広報物制作
- 経理
- HP管理
- 情報機器管理
- アルバイト管理
- 出版物制作




6

利用者層

1. 大学生
2. 短大生
3. 先生
4. 卒業生
5. 地域住民

対応

1. レポート課題の資料搜索
2. レポート・卒論の印刷サポ-ト
3. 文献複写
4. 相互貸借
5. ガイダンス、講座




7

楽しかったこと

- 常に“若さ”に触れられたこと
- 新しい企画をたくさん考えたこと、実行したこと
- 他大学との情報交換
- 他大学の見学
- 業者さんとの情報交換

大変だったこと

- 多様性
- 他部署とのギャップ
- 共通テスト
- 書架増設
- 爆発物
- アポなし一般利用



8


大学図書館に勤務して良かったこと

- メールのやり取りを学べた
- 少しパソコンに強くなった
- お金の流れを学べた
- 組織とはどのような流れで話が進むのか学べた
- 情報系の部署による研修があった
→AIに関して、M365に関しての情報を得ることができた
- 自分の得意・できることを仕事に生かすことができた

9

公共図書館

2024年4月～



10

担当しているもの

- 4月
 - 相互貸借
 - HP
 - 5, 6類
- 5月
 - 相互貸借
 - HP
 - 5, 6類
 - 広報
 - パソコン
 - 0, 1類
 - 地域資料
 - 参考図書

11

利用者層

大人から子どもまで

対応

1. 所在案内
2. 所蔵案内
3. 相互貸借
4. イベントの受付


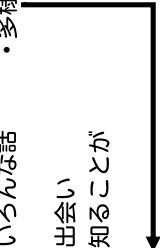
12

楽しいこと

- ・利用者さんからいろいろな話を聞ける
- ・いろいろな本との出会い
- ・知らない土地を知ることができる

大変なこと


- ・多様性



13

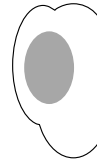

働き方はたくさんある

- ・公務員として
- ・大学図書館の職員として
- ・会計年度任用職員として
- ・民間事業者等に所属（公共・大学問わない）



14

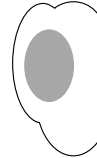
その他



15

図書館勤務に必要なだと思うもの

- ・コミュニケーション能力
- ・体力
- ・清潔感
- ・自発的に動くこと
- ・柔軟な思考



16

経験して良かったこと（部活編）

- **運動部**
団体行動を学べる
体力がつくため仕事をやりきることができる
メンタルを鍛えることができる
- **写真部**
写真を撮るために人に話しかけることが必要
→人と話すハードルを感じなくなる
- **国際交流部**
話せなくていいので知っている英語で話そうとする勇氣を持つる

17

経験して良かったこと（アルバイト編）

- **飲食店（ホール）**
コミュニケーション能力を鍛えることができる
- **飲食店（キッチン）**
効率よく動く方法を学べる
- **レジ業務**
コミュニケーション能力を鍛えることができる
マルチタスクに慣れることができる
- **内職系**
集中しつつ周りを見る能力を養える

18

ご清聴ありがとうございました！

19

質疑応答

吉植 質問を受けて、登壇者に質問を投げ掛けるみたいになりますね。挙手でも結構です、コメント機能でもいいので質問を寄せてください。

B－ 今までの話を聞いて思ったんですけども、司書課程っていうのは、大学院進学っていうよりも就職のほうが強い感じですか。SPIとか、公務員の試験とかも含めて。

熊谷 大学院に進まずに、そのまま卒業して、採用試験を受ける場合っていうことでよろしいですか。採用試験についてっていう話であれば、学歴とかに関しましては、大学院を卒業しているから優遇されるとか、そういうのは一切ないですけども、ただ私が受けた自治体みたいに、4年制大学じゃないと正規採用の資格がないよっていう所はあったりしますので、それくらいですかね、学歴に関しては。

B－ ありがとうございます。

吉植 コメントからの質問も出るようになりました。熊谷さん、採用試験の対策の時間は、どうやって取っていましたか。要するに、学校司書として勤務しながら、公務員試験の対策をよく両立させたと思うんですけど、どうやっていたんでしょうか、という質問です。

熊谷 私は、実はそもそも4月の時点で採用試験を受けていました。だから、どっちかって言うと採用試験の勉強とか面接の練習っていうのは、ほとんど就職活動の続きみたいな形だったので、勉強とかに関しては、ほぼ大学時代にやっていたのを引き継いで、今の経歴も含めて面接で話すっていうような形でした。SPIに関しては、すごい難しい試験でもないので、軽く復習というか、ちょっと問題を解いたりするくらいで収まったかなと思います。教員採用試験も受けたんですけども、そっちのほうも割と、講師の人は教員採用試験を基本的に受ける形になるので、そういったかたがたは校長先生に面接の練習をさせてもらったりとか、過去問とかが学校単位で配られたりして、割と問題集とか問題とかはもらえたり、勉強会をやっているっていうような先生がたまにいらっしゃったりしました。基本的に、働きながら何かの採用試験とか受けるっていう人は、そういうやり方をしているのかなと思います。

吉植 ありがとうございます。他の質問です。菊池さんへ、論文を書いてからいらっしゃった、その論文はどちらに出したんですか。ボードゲームはどんなものが人気だったんでしょうか。

菊池さんの論文の話と、ボードゲームの種類ですね。この二つについてお願いします。

菊池 はい、ありがとうございます。論文に関しては、最初に出したのは私の所属しているNPOの代表に提出しました。そのNPOが新しい図書館関係の資料…雑誌を制作していて、そこに業界関係者の論文を載せることになっていたんで、そこに載せていただく予定だったんです。それからボードゲームの論文に関しては、私が認定司書として認定されるための提出書類として執筆しました。

吉植 あと、ボードゲームのお薦めというか、どういうのがいいのかっていう質問でした。

菊池 どういうのがいいのか。図書館で集める上でという認識でいいでしょうか。どういうボードゲームがいいのか。これもいろいろ考え方はあると思うんですけども、図書館の資料として考えるのであれば、やはり実務的な部分でいくと、あまり内容物が多過ぎると大変ですので、そこは受け入れをするときに必ず見るようにしました。あまりにも確認する量が多いと、本当に貸し出すまでの時間が取られちゃいますので。あとは、仮に中身がなくなってしまったとしても、ゲームの進行に困らないものを選ぶようにしました。全ての道具を使うわけではないっていうルールのもを選定できるように気にしているところです。そして、それから対戦ゲームっていうのは結構、多くなってくると思うんですけども、人数の制限というのは、例えば2人だけとかですと、2人用になっちゃうので、2人から8人みたいな感じで、わいわい、人数的な制限の緩いものっていうところで、たくさんの人が遊べて、かつ長く資料としては使っていけるもの、そういった観点から集めるようにしていましたね。

吉植 ありがとうございます。あとは、正規と非正規のメリットデメリットについての質問です。これは、二つとも経験したのは熊谷さんだったと思うので、熊谷さんをお願いします。

熊谷 非正規と正規の違いですよ。非正規雇用っていうのは、基本的にはもう期間が決まっていて、それで更新する場合は更新するし、そのまま切られることもあるっていう、非常に不安定な雇用形態になっております。私の場合は講師なので、臨時採用の職員っていうことになるんですが、講師っていうのは、割と教員の業界が人手不足で、向こうから切られるってことはあんまりない業界ではあるんですが、それ以外の図書館の非正規雇用っていうのは、雇い止めっていう問題を聞いたこと、ある方もいらっしゃると思うんですけども、そういった問題が常に起こっていて、次の採用のめども立たないし、辞められて収入もなくなるっていうよう

な問題が割と起こるようなところになります。正規採用ですと、そういうことがないというか、公務員の正規採用であれば、基本的には給料は他の一般職の職員と同じですし、等級も年々、上がっていくってような形で、割と安定しているってところで、非正規と正規では結構、身分というか安定度合いが違うのかなって思うのは思いますね。

吉植 すいません、ちょうど今、2人から手が上がっています。お願いします。

C- すいません、小島さんに質問なんですけど、一般職を最初に1年間、勤められてから大学の図書館に転職したということだったんですけど、辞めた時期とか、そういうのは予定どおりだったのかなってというのが、聞いていて気になりました。勘違いだったら申し訳ないですけど、大学のほうに声を掛けていただいて、図書館のほうに転職されたというふうにおっしゃっていたと思うのですが、その流れとか、もしよろしければ教えていただきたいなと思います。

小島 実は、一般職のほうで、私、もろもろがありまして、休職をしていた期間があります。その休職期間中に、私はちょうどコロナ直撃で大学の卒業式ができなかった世代なんですけど、1個下の後輩が卒業式できますのでよければちょっと来て一緒に写真を撮りませんかって誘われて、それで大学に顔を出して、大学図書館に顔を出したのがきっかけで、小島が今フリーだぞというのが大学図書館に知れ渡り、そこから、フリーなら声を掛けるべきだ、みたいな感じでお話をいただきました。なので、休職期間中に、実はもう大学図書館から声を掛けていただいたので、休職から復職するか退職するかって話になったときに、私は会社に退職をしますっていう申し出をした感じになります。

ただ会社は引き止めたいので、私を2時間、3時間ぐらい会社に拘束して、いかに今の会社に残るのがいいのかっていうものとかは、言われたりとかして、そんなスムーズではなかったんですけども、5月頭ぐらいに退職になって、その間にどんどん大学図書館に勤務するっていう手続きは進めておいてもらったので、退職して1週間後ぐらいには、もう大学図書館で勤務開始というようになりました。私は大学図書館でアルバイトを大学2年生のときからしていたっていうのがあって、顔見知りだったっていう、そのつてもあって割とスムーズに転職ができたっていうのがあるので、これは参考にしないほうが、多分、いいのかなというふうに思います。けど、いろんな所に知り合いをつくっておくのは、いいことだと思います。

C- ありがとうございます。

吉植 最後、D君、感想をお願いします。

Dー さっき小島さんがおっしゃっていたように、図書館員って給料もあんまり多くないし、カスハラも受けるし、体力もいるし、休みも不定期だしっていう、最高にままならない仕事で、最高にいいなと思って、がぜん興味が出ましたっていう感想です。ありがとうございます。

吉植 ありがとうございます。もう時間が過ぎてしまったので、まだいろいろ聞きたいことがあるとは思いますが、これにて締めたいと思います。登壇されたお三人の方々に熱い拍手をお願いします。

今日は皆さん、お忙しい中にご参集いただきまして、ありがとうございます。主催した側としても大変うれしい限りでございます。ありがとうございました。

(了)